

茨城統計 十一月號

悲しむべき秋

稔りの秋と稱し、秋は農村の一番樂しみな時である。ひたすらに土をのみ愛撫して、暑さ寒さの厭ひなく、花も見ず、また月も見ず、營々として働く農人への唯一の報酬は稔りの秋である。

一望萬頃、黄金の波寄する穰々たる秋の田園に立ちて、土に生れ、土に節つけられた農人の唄歌ふを聞く時、何人かこの景物に憶れないものがあらう。

此の時ほど、農村を詩化し、美化し、大自然の寵兒たらしむるものはない。

然るに何事ぞ、僅かに旬日を出でざる天帝のいたづらに、未曾有の水害となり、稀有の冷害となり、災禍暴虐の限りを盡して稔らぬ秋をまぎくと我等に見せつけた。

せめていま一週間、せめていま十日、天候順調にありせば近年稀れなる豊作といはれ、剩さへ爾よく麥よく、いはゆる鼓腹摩攘を如實に見られるであつたらうに、天無情、一年の勤勞は滅茶々に蹂みにじられてしまった。

大地は叩けども音もない、歌はるべき秋ながら聲は死んだ。聴くものはたゞ嘆息のみ。悲むべき秋である。



小麦の奨励に就て

地方農林技師 藤 平 重 信

本縣は古來麥類の生産縣として全國有數である、特に小麦の生産にあつては曾て全國生産額の約一割を占めて居つた程であり、最近小麦増産奨励の聲に呼應し、全國的に著しき増産が行はれた結果、一割を下ることにはなつたが尙全國第一位たることを失はない。

従つて小麦作は本縣農家經濟の上に重要な役割を有し之が消長は農家の一大關心事であらねばならない。

昭和七年小麦増産奨励事業が開始せられて以來、政府の價格維持の政策と奨励施設と相俟つて異常なる増産が行はれ滿三ヶ年を経過せる今日既に國內需要を充たすに充分なる生産に達したのであつて、今後我々は新なる意味に於て小麦作の奨励を考へる必要がある。

我國食糧農産物中の大宗は何んと云つても米であり、次に來るものは古くは小麦、裸麥であり、其の次に小麦が位して居つたのであるが、最近に於ては統計の示めせる如く作付反別に於て小麦が小麦、裸麥の領域を遙に凌駕するに至つて居る、其の變遷の原因としては、國民の食糧品に對する嗜好の變移、世界大戰後に於ける我國製粉業の發達等が重要なものとして數へられるが、兎に角小麦は今後益々食糧農産物として、其の重要性が高められて行くこと云ふことは肯けるのである。

斯る情勢にある小麦が増産計畫の樹立せられる以前は國內の生産が其の需要を充すに足らず年々約五百萬石の小麦が輸入せられて居つたのであり、一面國外の事情を一瞥する時は輸出國に於ては過剰生産に悩み、競争して輸入國に賣り込まんとするに對し、輸入國にあつては自國農業保護の見地よりして、關稅其の他の方法を以て夫々障壁を設けて、外麥の輸入を防遏せんとし小麦の大波は障壁の薄弱な國へ向つて襲來せんとしつゝあつたのである、更に一般經濟界の情勢は所謂ブロック經濟化する主潮の下に自國の勢力範圍を自國生産品の活躍の舞臺として維持せんが爲、他國品の排撃を行ひ我が貿易品の如きしばしば危機に頻したのである。之が爲、小麦の輸入を他の輸出品に依つて補ふと云ふわけに行かなくなつたのであつて、當時小麦の國內自給を目的とする増産は國家的に見て喫緊の要務であつたのである。

斯の如く小麦の増産奨励は國家經濟の必要に逼られて始められたものであるが、然しながら一方農家經濟を離れて成立するものではない。昭和九年の内地の産額は九百四十五萬石となり外麥の必要輸入額を五十萬石と見ても壹千萬石に達し充分國內の需要を充し得るに至つた然かも相場に於て常に好調を示めしつゝあつて、尙小麦の高値に引き吊られて小麦、裸麥等の相場も騰貴したのであつて小麦増産の爲に小麦、裸麥等の反別の減少を來したとは云へ麥類の總生産價額は昭和七年前と比較しても著しく増加して居るのであつて、農家經濟更生の上に益する處尠からず、確かに所期の目的を果したと謂ひ得るのである。

然しながら此の効果を持續せんが爲には今後も只増産の一途を辿ると云ふわけにいかない。本年の小麦相場は出廻最盛期に於て七圓近くに上り、現在では八圓以上を示めしつゝあるのであつて近年になり高値を現出した、其の間種々特殊な事情が介在しては居つたが、斯の如き高値を出現せしめた根本原因は生産額が需要額の以下にあつたと云ふことであらう、若し生産額が需要額を超過して居つたとするならば如何に外麥が騰貴し、米價が亦高値を

示めたとしても到底今日の如き相場は得られなかつたであらうと考へられる、現に第一回小麥收穫豫想に於て内地生産額が九百七十萬石と發表せられた時昨年よりも本年は増産であると云ふ聲が相場の上に良く響いて出廻初期には五圓三、四十錢と云ふ安値が出て一時非常に懸念せられたのであつた、斯くの如く今日最早や我國の小麥相場は殆んど外麥の相場に依存する所なく内地の生産額の如何に支配される様になつて來たのである。

従つて今後の小麥作の奨励には此の生産と需要を調和せしめて行くことが最も緊要であつて需要に訓はつて生産を調整し、國策として樹てられた小麥増産計畫を農家經濟と合致せしめ永く其の効果をあらしむることは完全に所期の目的を達成せしめる唯一の方法である。

最近に於ける我國の需給關係を見ると年々約一千二百萬石の原料小麥を必要として居る、然しながら其の間二百万石近くは製粉として外國に輸出せられるものであつて之に對しては外國小麥が用ひられその外國原料には輸入税が免除せられることになつて居るので之は考慮の外に置いて可然である、従つて内地には一千万石の小麥があればよいと云ふことになる、尙其の内で特殊な用途のものとして現在の状態では内地産原料では間に合はないものがある、即ち高級なパン粉の原料、味の素に用ひられる粉の原料等にはどうしても一部外國小麥を加へなければ結果がよくないのであつて、外麥の必要輸入額と云ふものがあるが、之を約五十萬石と見る時は内地で九百五十萬石の生産があれば需要供給のバランスが取れることになるのである。

一方作付反別を見れば昭和九年度に於て全國六十八萬町歩となつて居るのであつて、平均反當り一石四斗の收量が擧げられる時は既に九百五十萬石の生産額に達することになる、従つて作付反別に於ては現在飽和點に到達して居ると云ひ得るのであつて、今日の相場に吊られて此の秋の蒔付に於て著しく小麥の反別が増す様なことでもあれば來年の小麥相場は非常な危険状態に置かれることになるのである、此處に於て農家は這般の事情を充分考察して

無謀なる増反は差し控へ努力關係、土地の状態、或は最近問題になつて居る萎縮病豫防の方法として他作物との輪作等の關係を考慮し堅實なる農業經營の見地よりして小麥作を進めて貰ひたい。

斯の如く生産の調整が先決問題となつて居るが尙又生産技術の改良は飽く迄も必要である、生産技術の改良に依つて單位面積當りの收量の増加と品質の向上を圖ることは生産費調査の結果等より見ても生産費を遞減せしめる一大要素になつて居り、將來外麥と對抗する上に於ても益々必要となつて來るのである、よしんば之に依つて著しき生産過剩を來すが如き時が來たとしても其の時は小麥作付面積を減少して他作物に振り向ける途があるわけである、販賣統制の必要に就ては今更縷々述べる必要はないと思ふ、今夏の販賣戦に於て農家は充分産業組合に依る統制販賣の必要と其の利益を悉知した筈である、只今後更に名實共に統制を鞏固にし益々其の利益を擴大せんことを望んで已まない。更に一項必要なる事項は小麥の自家消費の促進である、農家が自家で必要なるものを生産することは農業經營の原理から云つても行はねばならぬことであるし殊に最近に於ては經濟更生の聲と共に經營要素の自給自家用醬油の醸造等相當増進して居るのであるが、小麥の奨励方面から見ても自家製粉、自家用醬油の醸造或は精白小麥の混食等、自家消費を促進することは販賣小麥の數量に弾力性を持たせることになり販賣を有利に導く一手段となるのであつて是非共考へなければならぬことである。

以上小麥増産の経過と今後考へるべき方針に就て述べ來つたつもりであるが、縣に於ては以上の方針に基き昭和十年度より新しき施設として各郡農會をして小麥作改善共進會なるものを開催せしめて居るのであつて、右共進會は出品單位を農村に於ける農家組合及之に類する部落團體となし、團體的掣肘に依り無謀なる増反を戒め、部落主体としての栽培技術の向上を圖らしめ、更に販賣に對する團結、自家消費の増進等綜合的指導の實を擧げんとするのが本共進會の目的とする處である。

庶幾くは農家の自覺に依り今日迄收め來つた小麥増産の効果を一朝にして水泡に歸せしむるが如きことなきを。



統計模範町村を訪ねて(5)

筑波山麓の理想郷

真瀬は古しへ美人の本場

燃ゆる郷土愛から村民一睦

一 記 者

その朝、常総線で下妻から水海道に下車、それから土浦通ひのバスに乗替へて約二十分、福岡塚に近い開墾地の處でおろされた。

目的の地は筑波郡真瀬村である。

自動車の車掌に聞くと、そこから約十町といふ、乗合はした老人は横合ひから口を出し『二十五町位歩くと思へな』と云つて二本の指を出して見せた。十町といひ、二十五町といふ、多少迷はされぬでもないが、秋晴れの旅日和である、た

いしたこともあるまいと、足どりも軽く開墾地の間を行くと續く松林だ、遠くの方で鶏の聲が、かすかに聞える。暫くすると部落へ出た、坂をおりる、沼べりを通る、又部落だ、かうして幾つかの簡素な部落を越すと丁字型の廣い立派な宿場みたやうな處へ出た。

そこが目當ての真瀬村真瀬だ、これなら十町位なものだらうと事實大いに安心したのでしたが、それからが大變で、行けども真瀬だ、道は廣いし、家並は揃つてゐる、聞きしにまさる整つた村だなと自問自答しつゝ感心して行くが、目指す役場らしいものが見當らない、何時の間にか突き當つて

道は二股に分れてゐる、折よく通りがりの荷馬車屋さんに尋ねてみると、この先きの田圃を越すと部落がある、部落を越すと又田圃へ出る、役場はその畑の中に駐在所と並んでゐますが、また相當なものですから十町も行つたらおきゝなさいといふには、如何に日和がいゝからとてチト憂鬱ならざるを得なかつた。

筆者は曩きに松原町を訪問して小字の多いことを誌上に紹介したが、真瀬村の字名もたいしたものだ、即ち

大字真瀬に二十五△大字高須賀に八十三、大字高良田の元上新田に五十八、元下新田に五十三△大字老田淵に五十三△大字新右衛門新田に三つ△大字鍋沼新田に三つ

合計二百五十七の小字がある、前述の丁字型になつた真瀬の本通りのあたりは字鎌倉と稱し、

往昔美人の本場

として有名な所で、鐵槌^{てつち}つけて、口紅^{くちびる}さして、目ひき袖ひき村の若人達を悩ましたといふ、まるで大昔^{おほむかし}黄泉國(出雲か)に營まれたといはれる女神、男神の神話をそのまゝ、妖艶な場面が夜な〜くりかへされ、

鎌倉街道にや箒はいらぬ

〇〇〇女の裾で掃く

といふ俗語さへ今に残つてゐる。想ふにこの地、往昔文物な

か〜に開けて人馬の往來繁く、しかも住民は男よりも女が遙かに數多く、常に男漁りにうき身をやつしたといふ時の風情を言ひ傳へたのではあるまいか。

閑話休題、教へられたまゝに道を急ぐと、成る程役場の前へ出た、檉の生垣に圍まれたトタン葺きの平屋、入口にお粗末な掲示板が雨ざらしになつてゐる。どこから見ても村の役場だ、素朴な村の姿その儘だ、農民の姿そのまゝだ、そして其の、つゞれの衣に得難い村の名實が包まれてゐるのだと思ふと、おのづと敬虔の念にかられて獨りでは首はさがる。

玄關に立つて案内を請うと、筆者を何處の誰だかもわからないのに、

『どうぞお上り下さい』

わきの事務室の方から優しい聲がする、來たる者は拒まずといふのか、斯うした淳朴なところが實に氣持ちがよい、また面會もしないに早くもこの村の人にでもなつたやうな氣安さだ。

聲の主は収入役久保田光一郎氏だつた。こゝで初めて名刺を交換したり、水害の話などしてゐるうちに助役山田泰次郎氏が見える、小學校長田中守三郎氏が来る、この朝公用で土浦の税務署へ行かれた筈の統計主任宇津野竹雄氏が早くも用事を済まして、九時少し過ぎだといふのに自轉車で歸つて來る。

來意を告げると校長先生は、それではとばかり學校へ戻つて郷土讀本(公民科)をはじめ郷土の地理、郷土の歴史、郷土の動物、植物等およそ郷土に關する種々な資料を一抱へ持参され、

卓を圍んで我等

は村を語つた。この協睦の美、この誠意、この勤勉があつてこそ村が立派になるのだ。田中校長が持つて来てくれた「郷土讀本」の初めにも

眞瀨村の幸福利益を増進させるには、眞瀨村に適切な政治を行ふにある、之れを行ふには必ず眞瀨村の有様をよく知つてゐるものではない。

と教へ、更に又別の「郷土讀本」では

田でも畑でも、一に氣候や土地の性質を基として研究をしてゆくかうして天然力と結びついて作り出す努力は都會の人たちは味ふことは出来まい。私の村の人だちが味ふことである。かうして堅實なる自然心に富める協和的な性質がうまれてくる。これはやがて良い日本人であるのである。

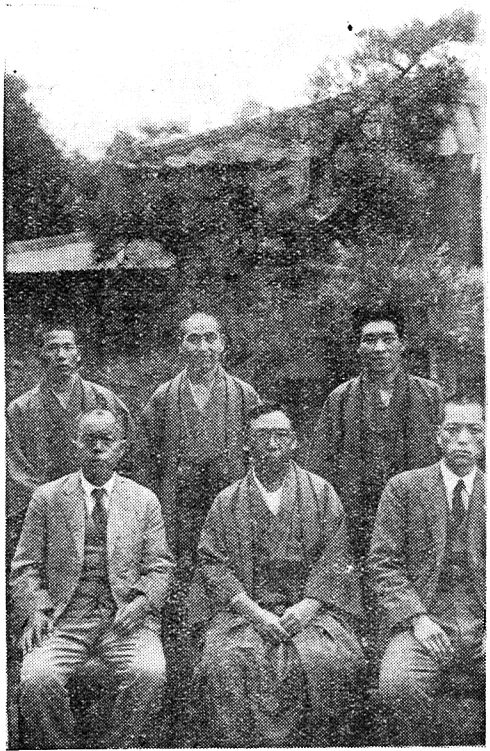
と教へてゐる。『堅實なる自然心に富める協和的な性質』——それこそこの村の最も貴重なる土臺となつて理想の眞瀨は築きあげられたのではあるまいか。

網を投げたりしてゐる平和な光景を見られるであらう。繪にみる如きこのなごやかな若人達の手によつて、時々は大らかな鮭もとれる、鯉もとれる、さうして夕べの食膳は賑ふのだ。水によつて時には恐ろしい災害を被ることも無論無いではないが、常に水によつて斯くは耕し、斯くも幸福は齎らされ都會人などが夢想だもなし得ない眞の生甲斐ある境地は、上に親むものゝみが享有する大自然の恵みであることが確證つけられる。

その昔、眞瀨村は今の大宇高良田のあたり一帶、山田沼または蛇沼とも稱し、

渺茫たる湖で遠く

下妻あたりまで續いてゐたらしい、舊記によると天正年間、(今から約三百五十年前)下妻城主多賀谷政經が谷田部の岡見



【眞瀨村の風景】前右列より左列
 中央 山田 太郎 氏
 右列 川端 龍平 氏
 左列 小島 守三 氏
 中央 津野 龍雄 氏
 右列 野村 浩一 氏
 左列 中野 三郎 氏
 中央 竹野 龍雄 氏
 右列 野村 浩一 氏
 左列 中野 三郎 氏
 中央 津野 龍雄 氏
 右列 野村 浩一 氏
 左列 中野 三郎 氏

眞瀨村は、筑波郡の中部に位し、南北三、八一八米、東西一、六三六米、南北に長細く、櫻で名高い福岡堰は約一里の南方に、上郷の金村雷神は大字高良田の北方に隣りしてゐる先頃の國勢調査によると戸數五百四十九戸、人口男千六百四十三人、女千六百七十人、合計三千三百十三人で、二百九十三町六反余の田と、三百一十一町一反余の畑を有し、小貝川の流域に沿うて地味肥沃、名高い谷原三萬石の接續で太郎兵衛糯の名産地である、過日の水禍に、水田三十町、桑園總反別百六十六町五反の内十五町七反歩ばかりの浸水を見、中には冠水一週間にも及び芽生えて一寸以上になつてゐるものもあり殊に無芒愛國は冠水せるもの殆んど全滅の有様であるが、陸稻の收穫素ばらしく、水災の一部は償ひ得られるであらう、この地養蠶業頗る開け、畑地の大部分は桑園で、大小麥作これに亞ぎ、左の如き數字を示してゐる

種類	作付反別	收穫高	價格
水稻	三、〇二四反	五、二〇二石	一四八、四三五圓
陸稻	六二一	七二二	一七、三二五
小麥	五二七	一、三三〇	一四、九七〇
養蠶	七二八	一、〇九一	一四、五六〇
養蠶	一	三二、九二二	六八、一九二
鶏卵	一	五七二、三二〇個	一一、四四六

秋蘭けて、とりいれも終つた頃、小貝川堤を行けば、ねえさん達が川べりに列をなして大根を洗つてゐるさまや、青年達が小舟を泛べて透きとほるやうな川底にヤスを入れたり、

主殿之介を攻めんとして船を率ゐて來り、眞瀨の中津臺に上陸したとある、當時それ等の船を繋いだといふ二本の大きな松があつた、船繋松と稱し、幹の周り一丈六尺もあり、年ふりて樹ぶり床しく、領分外にまで枝をひろげて水田に影を映し、千年の縁を

近郷に誇つてゐたが數年前前後して二本共枯れてしまつた。現に小學校の敷地になつてゐる龜の子山の一角に立てば天神山の腹部とこの龜の子山の突端とが咽喉を扼して深く灣入した谷田が見える。

山田沼の水がこゝに潜入して當時最も理想的な船着場をなし船舶こゝに輻輳し、白帆に夕陽を受けて歸り來る船人の情緒出迎へて待つ港の人々、幾とせかこの老松に詩情を湧かしたことであらう、在りし古への俤を偲ぶ唯一のかたみであつた

道を擴げ、道を固め

に、今は根元から切り倒されて、その周圍一反三畝ばかりの處へ小松を植ゑて水田の中にポツンと饅頭型の塚をなしてゐる。俳壇の耆宿内藤鳴雪翁先年この地に遊び古塚や冬田の中の一つ松と詠まれた。

沼は二百年ばかり前、享保年間に瀬換へして良き田となりよき畑となり、よき新田部落が建設された。

なほその頃のことであらうか、山田千軒と稱へたところがあつた、役場を出て宇鎌倉の方へ向つて來るとスグ南方右手に、こんもりした高臺がある、これが昔鳴らした千軒の跡だといふが、前に記した如く山田沼の水満々とたゞへて、船のゆきかひ盛んなりし頃、沼に沿うて繁華な一部落をなしてゐたもので

眞瀨のやうなる在所もあるに

谷田部城下とは氣がつよい

今に残るかうした俚諺から察しても、時の御城下谷田部をくさす程の繁昌であつたらしい、兵火に焼かれて住民離散しその後鎌倉あたりで愛嬌をふりまいた美人群の如き或ひは是等落人のたぐひではあるまいか。

何にしても眞瀨は大昔、頗る繁華な處であつたことは、宿のたゞすまひをみても察しられる、言ひ傳への風俗からも證明される、しかしてその宿通りのたゞすまひを更に直し、

たのは歴代村長はしめ村會議員、區長等が、よく我が村を知り、村の發達を考へ和合協調の美德を發揮したからであるは勿論だが、現村會議員富田長三氏が『村を知りたければ道を

知れ』といつた方針で、夙に道路網の完整に努め、明けくれ道路のために苦心し、道氣^{ミチキ}狂ひと迄いはれてゐる位で、氏が指導的立場にあつて絶えず熱烈に産業と交通の關係や、道路と村の發展などを村民に説き、且つ村當局にも迫つて、何事をおいても道だけは立派にと奔走されたのが常に輿論となり常に實行への大きな力になつたといはれる。

従つて道路は實によく出来てゐる、家並もよく整つてゐるこんな立派な宿だのに乗合自動車も歩かぬなんて不思議ならぬだが、近く上郷への縣道完成を待つて水海道から福岡眞瀨、上郷を貫ぬくバスが運轉される筈だ、トラックもはいつて來るだらうし、産業の發達期して待つべきものがあらう。

古來眞瀨には眞瀨木綿といひ、薩摩カスリにも似て染の堅牢と耐久力の優れたるを以て間屋筋から貴ばれてゐた。飯田と呼ぶ紺屋さんが片手間に創めた手織木綿から評判をとつたもので、現戸主飯田謙吉氏は桐生高等工業の染色科に學び、家傳の染色に化學を應用して一層堅實なものとなし、男女工

でも肯いてくれるが、伸展途上にある村のため忍べるだけ忍べの意氣で統計調査員の如きも手當なと意としない。

統計主任宇津野氏はまた三十前の潑刺たる青年だが、公用で土浦あたり迄出張しても朝の十時頃に歸廳して、それから平常通り執務するほどの精勵家だ、しかも文學に興味を有ち一面極めて優雅なところもあり、調査員には相當年配の人や村會議員を兼ねる人など、つまり長上が多いわけだがよく協調の實をあげ、調査員また献身的に働き、過般の水害當時なども、皆それ／＼に被害者の一人でありながら自分を忘れて持區々々の調査に従事したといはれる。この村では一調査區に正員と副員と二名つゝ十區二十名の調査員を置き正員事故ある時は副員之れに代ることになつてゐるから、たとへ突發の事情が起きても調査には差支ない。次に調査員の氏名を紹介しよう。(括弧「常」は常設委員「村」は村會議員)

正 調 査 員		副 調 査 員	
第一區 (常)	平 間	愛太郎 (六八)	飯 田 (基四七)
第二區 (村)	高 田	尉斗三郎 (四七)	飯 泉 (長太郎 四八)
第三區	小 堀	新 市 (二七)	飯 島 (愛之助 六〇)
第四區 (村、常)	川 端	佐 市 (五七)	飯 田 (清 吉 四〇)
第五區	伊勢崎	一二郎 (三七)	峯 本 (正 市 三三)
第六區	山 田	長太郎 (三一)	中 根 (德 二 二七)
第七區	高 城	正 奕 (二八)	山 崎 (喜一郎 二四)
第八區	瀧 本	白太郎 (四七)	山 田 (芳 男 二五)
第九區	飯 野	箕 輔 (五四)	飯 野 (惣三郎 二五)
第十區 (村、常)	吉 村	平重郎 (四五)	大 山 (森之助 四三)

二十名を使つて傳來の家業に精進し、昭和九年には産額約五萬圓に達し、前述の如く自動車^{自動車}の便がないので、自家用自動車を買入れ、これに製織品を積み主人公自ら運轉して各小賣店や東京方面の間屋場を廻り、自家製品と都會ものと物々交換して小賣部で商ひ、ゴツ／＼した自家製品と共に新柄物で好評を博してゐる。交通機關の整備につれ、米、麥、繭等と共に村の名物として一層産額を増すことだらう。

以上は眞瀨の大勢と歴史の一部を書きつらねたに過ぎぬが然らば

現在如何なる人々

如何なる組織によつて村は構成されてゐるか、大体は以上記述の中に現はしてあるが、現在村長は欠員で助役山田泰次郎氏が代理し、このもとに収入役久保田光一郎氏があり、統計主任宇津野竹雄氏あり、書記川端義雄氏、山田正二氏等ありて役場を守り、村會議員は十二名で獎勵員を兼ねてゐる、小學校長田中守三郎氏は縣社會教育課長田中確一氏のいとこで明朗なること、常に時代的研究を怠らぬこと等社教課長にさもにたるものがある、これ等の人々が燃ゆる如き郷土愛から打つて一丸となつて、よりよく村を展ばさう、よりよく村の幸福を増進させようと努めてゐる、わが統計事業についてもよく理解して互ひに助け合ひ、村當局が提案さへすれば何事

斯くの如く十二名の村會議員の内四名も調査員を兼ねてゐるのだから、統計調査員が如何に村内に有力な存在であるか知らず、右の内第七區の高城正姿氏は

名刺高須山永興寺

の住職で大學林出身である、永興寺は十一面觀世音を本尊とし、中古殆んど頽廢して見る影もなかつたが、大永六年堂塔を再建して永興寺と更め、以來十九代三百八十年に及び、法燈いよ／＼盛んなるものがある、調査員高城氏はこの寺の若き住職だが檀家の評判もよく、又常に農村の更生發展に留意し、寺域に農園を設けて實地に試作研究するなど寸時もゆるかせにしない。揃つてかうした調査員のことであるから無論手當など介意してゐないが、受持つところの區域は一人當平均五百筆、中には千筆からの田畑、山林を調査するものもある筆數が細かくて多數だから圖面を作るにも骨だし、調査も容易でない、それを平氣で丹念に仕をすのだ、その勞苦はトテも金では買へない、誇るべき村民性の現はれといつてよからう。

次にこの村の小學校について一つ付け加へて見たい、筑波郡を平均した小學校の兒童數は大體人口六人に一人といふのださうだが、眞瀬は五百四十九戸、三千三百十三人で六百六十七人の現在小學兒童がある、本年四月の新入兒童だけで百

七人、一戸平均一人幾らの兒童率で珍らしい現象といはれ、村の人口が男より女が多いことや、美人の本場と稱せられてゐることなど、何かそこに相據るところがあるのではあるまいか、そして之を要するに、この地の婦人方が多産であることは申すまでもないが、多産と兒童の健康及び村出身の名ある人等々について研究してゐる人もあるさうだ。村出身といへば

往年自由黨の華か

なりし頃、板垣退助伯の傘下にあり『我れに自由を興へよ、然らずんば死を興へよ』と雄々しく天下に絶叫し、政友會勃興時代の衆議院議員として聲名を馳せた故飯田新右衛門翁はこの村の人で、今に新右衛門新田の地名まで錄されてある、飯村五郎代議士もこの村の良高田の出生だ、先きに縣會議員で鳴らした山田宇一郎翁もこの村だ。

最後にも一つ、宇津野統計主任が作成の『眞瀬村統計報告書』について紹介したい、これは半紙十枚ばかりに謄寫版で印刷したもので、村の統計調査員の報告を基礎とし、隣接各町村統計主任や村の小學生徒を煩はして蒐集した材料により作成し、各調査員に村の統計を報告すると共に、一面教材の資料及び統計思想普及のために村の施政者の參考資料としてそれ／＼の關係者に配付するのださうだが、先づ第一に地圖

によつて近接町村の戸口を明かにし、その他面積の比較、財政教育上の比較、村の民有地と地租、税額、歳入出の各年比較、重要物産、家畜家禽、壯丁の體格等何れも圖表を以て示し、參考として日本の年収入、世界人口密度、世界の樹齡調べなど、或ひは繪畫を以てあらはし、表を以て示し、誰が見

ても一目ではつきりわかるやうに出來てゐる、たゞに統計の眞價をあらはす好個の資料たるばかりでなく、立派な教材として推稱すべきものと思ふ、宇津野主任の勞を多謝して擱筆する。

世界の人口

世界の人口は年々非常な勢ひを以て増加しつゝある。最近十ヶ年の統計の示すところによると我が日本の一ヶ年の人口増加は實に八十五萬人、これを各國人口の増加率から見ると第一に多いのはアメリカで一四・五%、我が國は第二番目で一三・一%、三番目がドイツで一〇・〇%、フランスが七・七%、イギリスが四・六%となつてゐる。

我が日本は土地が狭いところへ來て、この増加だから人口の密度では斷然群をぬいてゐる、即ち日本は一平方料につき百六十九人、次がイギリスで百五十人、イタリーとドイツがどちらも百三十三人、フランスからぐつと少くなつて七十四人、中華民國は三十九人、滿洲國は二十八人だ。

人口増加の首位を占めるアメリカは密度から見ると僅かに十六人で第八位、ロシアは僅々七人に過ぎない。



組合の統制下に 正しく伸びる新治村

この村にして此の不思議あり

前人未踏の森を開く者はないか

統計模範村

真瀬から逆にコースをとつて、途中生々しき水魔が跳梁の跡など車窓に眺めつゝ、一路新治郡新治村新治に村役場を訪ねた。

諸君は水戸から上浦街道を行く時、石岡を過ぎると間もなく、自動車で約二十分ばかりにして、やゝ下り坂をなした田圃の入口に出られるであらう、そしてそこに旗亭にてもあるかと思はれる瀟洒な平家建を見かけるであらう。これが新治村役場で、軒の下から前面一ぱいに稲田で、房々と實つた稲が玄關前の櫻の根元を蔽つてゐる、稲子が明け放たれた玄關に飛び込んで来る、かうした平和な環境の中に役場の人達は朝から晩迄、セツセとよりよき村を目指して働いてをられるのだ。

彼の「二十世紀」或ひは「やぐも」等も村全体で千本位栽培されてゐるけれど、この「長十郎」の蜜々しく美味なる、決して時代の流行物に勝るとも遜色なく、「土田梨」と銘うつて益々好評を博し、従つて値段もよく昨年の産額は六萬四千五百五十二圓に上つてゐる、梨といひ栗といひ、今日では村の唯一の收入で梨は反當り二百圓、栗は六七十圓に當り、柿も相當に出来るし、實りの秋を訪れると野は一面、是等の果物で見事に彩られ、田には穰々たる黄金の波寄せて村民悉く喜びの色を浮べてゐる。先頃の水害にも戀瀬川の逆水で水田約十町ばかり浸されただけである。この外に大小麥もかなり取れるし、養蠶も總戸数の半數以上即ち二百三十一戸で九年度には二萬一千圓をあげてゐる。

新しき農村經營

喋々するまでもなく農業は多くの場合、天候に支配されるもので、如何に農作を喜んでゐたからと一朝天の異變に會はんか、或ひは水害となり或ひは冷害となり、今われ等は眼のあたりに痛ましきその惨禍を見せつけられてゐる、しかもこの數年來、旱害に、冷害に、農村は苦みぬいてゐるのだ。従来やり來つた田の作のみによる、畑の作のみによる、一方ついで農業では甚だ心細くなつて來た、かうした時、この新治村の如く、米麥作の外に果樹園藝によつて收穫を助け、養

茨城栗と土田梨

戸數四百四十六戸、人口男千二百六十九人、女千三百七人計二千五百七十六人といふ小さな村で、耕地は田が二百五十八町八反、畑が三百四十四町八反歩、その内栗畑が百十町、梨畑が四十二町もある。年々アメリカあたりへ洋行までして有名な、いはゆる茨城栗の産地で、隣接志筑、小櫻の兩村と共に茨城栗出荷組合聯合會を組織し、その名によつて東京から遙々アメリカ迄も輸出され、碧い眼の異人さん達を喜ばせてゐるのだが、新治村はその中心をなし總出荷額の四割を占め九年度の産出高は五百三十八石、一萬七千七百五十圓の巨額に達してゐる、梨は「長十郎」種で、土質の關係か味ひ殊に良く、最近青果界の王座を誇るが如く、味覺黨を驚喜させた

蠶によつて收入を補ふなど、即ち農村本來の自給自足的經濟形態を完全に展ばし行くことによつて、はしめて氣儘な天帝のいたつらに打ち勝ち得るのではあるまいか。この多角的な新らしき農村經營機構のもとに組織的にして、しかも實際的に村を傳り立て、行くところの新治の内部組織はどんなものか、筆者は之を組合化された村と一口にいつておかう。

一里四方の村全体が一つの整つた組合の觀を呈してゐるから、二千五百の村民は悉く組合員の形をなしてゐるから、先づ第一に之れを如實化してゐるのは納税である、別段納税組合などいふものはないが、村創つて以來滞納が一文もない世の納税模範村といはるゝもの、やゝもすれば少しぐらゐの滞納があつても收入役が態面上立替へして世間前をつくらうとする傾きがある、新治も先きに三十年完納で表彰されてゐるが、こゝには金輪際さやうなからくりはない、税務署あたりでも大變不思議がつて月末などに突然見に来ることもあるさうだが、餘りにも綺麗な帳面づらに來て見て二度ビツクリして歸るさうだ、長い間の習はしで税金を納めないと周圍のものに氣まわりがわるいやうになつて何事を措いても税金だけは納めるといふことになつたものらしい、それもこれも無論村當局の指導宜しきを得たからであるが、村民が納税觀念に強く一つの組合の義務の如く心得てゐることも異とせねばなるまゝ。

共榮的厚生生活

さて是れは村民の義務的觀念の旺盛な一面を現はしたまてゝあるが、この外に法規に則つて組織されてる組合が三十からもある。

- 一、無限責任新治村信用購買販賣利用組合 二つ
- 一、茨城栗出荷組合 二つ
- 一、土田梨業組合 九つ
- 一、養蠶實行組合 一つ
- 一、農事實行組合 六つ
- 一、農家組合 六つ
- 一、養鶏組合 六つ
- 一、養豚組合 六つ
- 一、生活改善組合 六つ
- 一、糶製造組合 六つ

等々、あらゆるものみな組合の統制下に相互的援助を營み、産業上並に經濟上最も優秀なる發達を遂げつゝあるのだ。

産業組合は大正二年の設立にかゝり、信用、購買、販賣、利用の四組合兼營で出資拂込金九千三百圓、組合員現在三百人、本年九月末現在の貯金が八萬六千七百圓、貸付金三萬四千六百圓、購買品は肥料、雜貨等三萬五千五百圓となつてゐる、販賣は本年はじめて鶏卵だけを開始したが、それが九月

る、矢口氏また身邊の私事情等一切おかまひなしで、組合のために専念してゐるから組合は益々發達し、一昨年来商工省から二百圓つゝの補助金を下附されるにいたつた。

不幸あれば組合葬

生活改善組合は各字毎に設置され、到る處で一様に改善の急は叫ばれてゐるが、たゞ叫ばれるだけで容易に實行し得ないところの冠婚葬祭の改善に先づ手を染め、事業漸く緒につき、縣社會課の補助を貰つてゐる。

今日、中産階級の農家などが著るしく疲弊せる原因をきいてみると多くは子等の婚禮に莫大な出費をしたとか、葬儀等の不幸で思はぬ物いりをしたからといはれる。

病中の醫療費、葬儀前後の諸がゝりなど、全く容易でない。之を要するに一つは見榮である、斯々せねば家門の恥になる何かしらプライドを傷けられでもするかやうな、つまらぬ虚榮心からなかく改められない風習を一掃して、黎明ほのく〜と新治の一寒村から輝き出すやうしたいとつとめてゐる、就中熱心なのは大字東野寺及び西野寺で、婚禮は村人同士なら兎も角、他町村の人と縁組む場合にはその村々の風習に従はねばならぬ關係等から、成るべく節約するといふにため、また理想通りにはいかぬらしいが、葬儀に對しては既によき定めに改められてゐる、即ち區内に不幸が出來ればそ

末現在で千十三圓に上つてゐる。

土田梨業組合はこの村の産業の大恩人といはれる矢口魁之介氏によつて昭和二年に設立された。茨城栗を今日あらしめたのも矢口氏である。明治



矢口魁之介氏

三十五年頃矢口氏は苗木を買入れて栗を栽培した、すると數年ならずして見事な實を結んだ、この栗の栽培によつて初めて果樹に對する興味を味はつた矢口氏は

『一体矢口さんでは梨などあんなに植付けてどうするつもりだらう、いくら大地主でも考へねえことをしたもんだ』

村の人達はこんなことをいつて笑つてゐたものだつた。けれども矢口氏は他人の批難などには一切耳を傾けず、ひたすら研究の結果、病虫害の豫防も完全に施され、素晴らしい梨が出来るやうになつた、之れが「土田梨」のはじまりで、村民は悉く氏が先見の明をたゞへ、氏の指導を請うて組合を作り、手となり足となつて共々土田梨の聲價を高めるやう努めてゐる。

の家の者には一切費用等負擔させず、組合の基本金から支出し、組合備付けの柩車に棺を載せ、組合の者が之を曳いて墓所に埋葬する、坊さんのお布施等まで組合から出すことになつてゐる。けれども死者に對する最後の禮とあつて葬ひの儀は出来るだけ嚴肅に營み、心から死者の靈を弔ふことになつてゐる。組合長は現に村農會長にして産業組合の指導監督にある豊崎昇氏である。

然らばその基本金はどうして作るか。不幸の家では斯くして組合の定むるところにより相互的援助の下に葬儀を營み、また香奠その他の供物も受けるが悔み返しは絶対にやらぬこととして、そのかはり悔み返しに要する費用を、三十圓なり五十圓なり、志にまかせて組合基本金の内へ寄附する、これが積もり積つて相當の金額となり、組合中不幸あらば、どこも一律一体に同じ格式の葬儀が行はれるわけである。そのはしめ一部組合員の間に

「我々のやうな乏しいものと大身たいでんどんが同じことではない』

といつたやうな不平もあつたらしいが、身分により、又はその人々の氣持により寄附額は全く隨意で、大きい處は身代なりに寄附も多く、組合の基本へばかりでなく小學校へ傘を寄附する人もあるし、教具を寄附するなど、それ／＼分に應じて公共のために盡されるので自然と諒解し、極めて圓滑に改善の實は擧げられてゐる。

尚ほこの村は七年度最初の經濟更生指定村にあげられ經濟更生の一方法として前村長元木松之助氏指導のもとに糶製造組合が主體となり、自家用醬油を奨励してゐる、現在全戸數の七割位が自宅で醸造し、總量一ヶ年七十石にも上り、殆んど醬油屋さんの影を絶つてゐる。

德望高き村當局

以上の如く何から何まで組合づくめで秩序整然、まことに一絲亂れざる統制の下に共榮的厚生生活を營んでゐるから、組合をはづれて得手勝手な計畫などは出来ない、よしんば計畫を樹て、みたくところで誰も相手にしてくれない、自然と規則立つた生活が習慣づけられるにいたつた。

斯くする迄には村當局の指導最も宜しきを得たのと村民の和とが與つて力をなしたことは勿論である。現村長中根市右衛門氏は三年ばかり前に助役から昇格した人だが、濃厚篤實聖者の如き德望家で、一意村民の福利増進に努力し、村會の如きも絶対信認を得てゐるから、提案に對しては一言の異議もなく、大抵の場合二十分か三十分で議了され和氣霽々たるものがある、助役元木德壽氏、收入役茅場次郎兵衛氏その他の吏員達もよく村長の意を体し、一身同体となつて村勢の伸展に盡してゐる、統計主任小倉茂氏は石岡農學校出身の青年だが、前の主任岡田書記指導のもとに統計事務の完整につと

め將來を嚆目されてゐる、今夏選ばれて内閣統計局主催の優良統計執務者養成講習會に出席した。現在同村の統計調査員は

- 第一區 前川 初太郎氏
- 第二區 石毛 彦助氏
- 第三區 櫻井 貞助氏
- 第四區 岩田 清衛氏
- 第五區 茅場 米造氏
- 第六區 佐谷戸 愛之助氏
- 第七區 川上 德之助氏

以上七區七名で石毛、櫻井、茅場、川上の四氏は村會議員を兼ね、皆よく献身的に事務の向上をはかり、若き主任をし

て『皆様がほんたによくやつてくれますので、非常に助かります』

と心から感謝させてゐる。

役場は明治四十二年火災に罹り建築したもので、前に述べた如く前面よく開けて明るい感じはするが天井が底く、執務に不便なので近く改築することになつてゐる、何しろ基本金が四萬圓もあるのだから譯はない。

恐ろしい二つの森

する古井戸があつて清冽鏡の如き綺麗な水が湧いてゐるといふのだが、そこがいはゆる土田不知で土地の人も氣味わるがつて寄りつかぬのだからサテ鬼がゐるか蛇がゐるか、わかつたものぢやない、唯一人八幡太郎義家だけが、たま／＼眼疾を患ひ、この泉を飲んで眼を洗つたところ、立ち處になほつたとある。誰か前人未踏のこの森を征服するものはないか、僅か三十坪の大藪である、興味あることであらう。

また大字上土田の畑の中には椿堂といつて、一反歩ばかりの處に椿の木ばかりが何百本とも知れず鬱蒼と茂つて謎の一劃がある、冬から春へかけて、つやつやしい緑の葉かげに眞つ赤な花をぎつしり

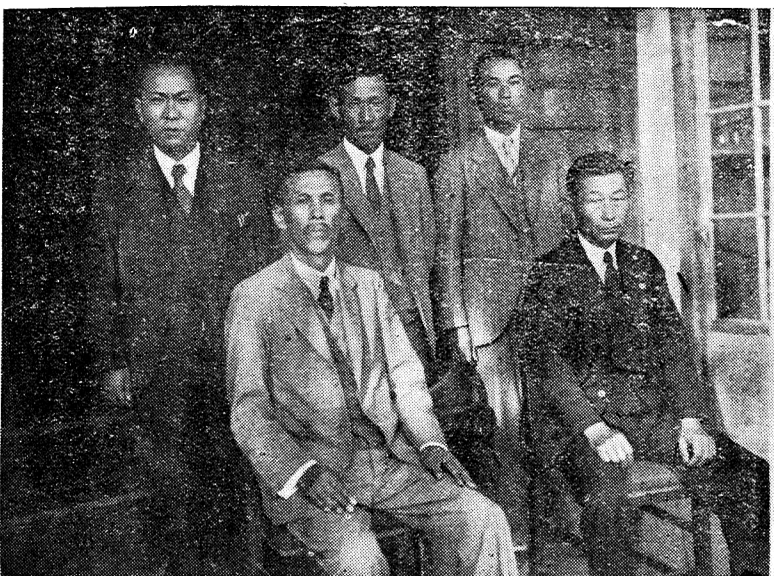
大昔、日本武尊東征の御砌り、この地方を御通過遊ばされしやに傳へられ、ある夜つれ／＼に尊が

『新治、筑波を過ぎて幾夜か寐つる』

と仰せられしをお附の侍老『かゞなべて夜には九夜、日には十日を』

とお言葉をつがへて彼の有名な連歌となり今に残つてゐるが、それからすつと過ぎて八幡太郎義家も、その父頼義も征夷の途次、同じ道を進まれ、いろ／＼不可思議な語り草を残されてゐる。

大字新治地内の、水田の中に三十坪ばかり、こんもりと樹が生ひ茂つて晝でも見透しがつかぬほど薄氣味悪い森がある、俗に土田の土田不知と稱へ、中央に「新治の泉」と稱



氏門衛右市根中長村左・氏壽德木元役助 右てつ向列前【明説眞寫】
記書岡左・記書野押央中・氏茂倉小任主計統 右列後

つけて、あたりも赤らむやうなその眺めは一しほ里人の眼をひくものがある、夜ともなれば梟は寒空に寂しく友を呼ぶ。詩的めいたこの森に、濃艶な花の精に、憧れてフラ／＼と一歩森の中に踏み入らうものなら、あとはどうなるのかわからない、中へはいると出て来た人がないといふのだから恐ろしい。

なほ大字東野寺には子安神社、大字西野寺には胎安神社と呼ぶ社がある、古來この村には難産のためしなく、また生れて後も弱々しい子供がない、これも不思議な一つで、胎安、子安の神々の御守護によるといつて身籠る女や、乳呑み兒を抱へた女たちの参詣常に絶ゆることなく、胎安は陰曆三月三

日、子安は陰曆九月三日の大祭日には臨時のバス等も運轉され、各二日間押しかへしもならぬ程の賑はひを呈するさうである。

組織正しき組合の統制下に厚生生活をいとなみ、近代的發達を示しつつあるこの新治村にも、一面むかしからなるかうした謎があり、この不思議がある、傳説はいかな科學でも容易に解け難いものだ。

尚ほ水戸の洋服屋さんで努力奮闘、よく今日の盛大をいたした玉造氏はこの村の出身で、先年郷愛に一千圓のピアノを寄附した。

病氣とヴイタミン

榮養問題がやかましくなつて来て、ヴイタミンがどうかの口に入るあらゆるものに關心を持つやうになつたのは結構だが、サテ然らばヴイタミンAとはどんなものか、BとはCとは……一体如何なる効果價値をもつものか、簡単に説明しよう。

夜めくらとか、その他一般の眼疾、失明、成長停止などの原因はヴイタミンAが缺乏したからで肝油、八ツ目鰻、バター、卵、野菜等を攝ればよろしい。脚氣、乳兒脚氣、成長停止これ等はBの缺乏から来る病ひで米糖、酵母、豆類、野菜がよい。次にヴイタミンCが缺けると壞血病(パロウ氏病)になり易い、蜜柑、レモン、トマトその他果實や野菜にはCが澤山にふくんでゐる。

句俵病(セムシ)とか發育停止とかはDの缺乏から來ることが多い、Dは肝油、酵母、椎茸などにふくんでゐる、又Eが乏しくなると不妊症とか乳汁不足とかの原因となる。植物性の脂油、植物胚芽を攝るとよい。

水魔に祟られながらも

全國第三位の好成績

水害激甚地一町十八ヶ村に對しては

前例なき職務執行期間延長

誇る本縣の國勢調査

先頃施行された第四回國勢調査は、方今の國情に鑑み、頗る重要性を帯ぶる國家的大業として國民の關心を集め、極めて嚴肅の裡に行はれたが、是より先き本縣にありては縣南地方稀有大水害に遭遇し、稻敷、北相馬、結城、猿島の各郡最も甚だしく、就中稻敷、北相馬兩郡下の一部町村は、既往の水禍に徴して容易に滅水の見込み立たず、稻敷郡下十二ヶ村、北相馬郡下一町六ヶ村は遂に嘗てなき全國の例を破り十月一日の一齊調査を同月十五日迄延長するにいたりしかもその他の町村にありても、水害地に於ける調査員は、我が身罹災者の一人にありながら或ひは船により次から次へ

と難澁な調査を續け、或ひは脛を没するばかりの濁水の中を泳ぎ廻るなど、極めて困難な状況にあつたにも拘はらず、能く其職責を全うせられ、十月十八日全部の提出を見た。

手ぐすねひいて待つてゐた本縣臨時國勢調査部では同夜から翌朝へかけて凡ての整理を遂げ、十九日午後、全國第三位(第一位は富山、第二位は千葉)の好成績を以て内閣統計局に進達した。水魔の跳梁だになかりせば無論最高の成績を擧げ得たであらうに寔に遺憾のことではあつたが、斯くても尚ほ全國の第三位を占むるを得たのは各市町村當局の格別な盡力と六千調査員の献身的努力の賜に外ならない。

水害地に對する

應急處理

縣南を襲うた水害と國勢調査の關係に就ては内閣統計局より華山統計官外一名の來縣となり、又一方、縣は之に先だち北相馬郡へは齋藤囑託、菊池主事補、稻敷郡へは虎口、郡司、關、高島の各屬、猿島、結城の二郡へは渡邊屬、筑内主事補を急派し、水害の實狀と國勢調査の實施如何を視察せしめ是等の情報を基礎として來縣の華山統計官と慎重なる協議を遂げた結果、水害狀勢は稻敷、北相馬の二郡を除く他の地方は支障なきも右二郡は既往に於ける水害の經驗に徴し滯水長きに亘り規定された期間内に調査を完了するはとてむつかしく、さればとて國勢調査に斯る支障を見たことは全國に於ても未だ會て其の例なく、従つて調査員の職務執行期間を延期したる事例も無いので右職務執行期間の最終日十月五日迄の様子を見ることとしたのであつたが、水害狀勢は刻々險惡を傳へられ該期日迄に調査を完了するは全く不能なること明瞭となつたので調査員職務執行期間満限の日なる十月五日に延長の告示を爲すべく川崎統計課長は内閣總理大臣宛の災害狀況報告並に國勢調査職務執行期間延長の認可申請を携へて急遽内閣統計局に出頭、同書類の持廻り決裁を経て國勢調

査實施以來全國に初めて左の認可を得て即日歸縣した
 回發第一二九九號
 茨城縣知事 安藤狂四郎

昭和十年十月三日附統發第一二三號申請國勢調査員職務執行期間延期ノ件認可ス
 昭和十年十月三日
 内閣總理大臣 岡田 啓介

次いで豫定した如く五日、安藤知事から左の告示が發せられ稻敷郡下十二ヶ村、北相馬郡下一町六ヶ村の國勢調査は十五日迄の間に於て行ふことになつたのである。

茨城縣告示第六百二十四號
 左記町村ニ於ケル昭和十年國勢調査施行令第十四條ニ依ル國勢調査員世帯ニ就キ職務ヲ執行スル期間ヲ内閣總理大臣ノ認可ヲ經テ十月十五日迄延長ス
 昭和十年十月五日
 茨城縣知事 安藤 狂四郎

記
 稻敷郡 大宮村、生板村、源清田村、長竿村、根本村、柴崎村、太田村、金江津村、十余島村、本新島村、浮島村、大須賀村

北相馬郡 高須村、北文間村、川原代村、文村、布川町、文間村、東文間村

調査事務檢閲

斯くて本縣臨時國勢調査部では水害により延期された稻敷、北相馬兩郡下の一部を除き左記日割の如く各町村に就き檢閲を行つたが、これに際し縣では常に町村に於て統計事務に従事し成績優良なる者三十名を選抜、縣係官の補助として檢閲を手傳はせた、尚ほこの檢閲に當りては「市町村要計表」「照査表」「申告書」をそれ／＼當日持参せしめ先きに豫習檢閲の結果に基き注意したる要項と同様の点につき特に留意するやう豫め注意する處あつた。

郡市	檢閱場所	月	日	檢	閱	市	町	村
水戸市	茨城縣廳	十月	九日	水	戸	市		
東茨城郡	茨城縣廳	十月	六日	酒門、吉田、綠岡、河和田、長岡				
		十月	七日	上野合、白河、橋、小川、竹原、堅倉、川根				
		十月	八日	石塚、小松、西郷、坪、岩船、澤山、伊勢畑、飯富				
		十月	九日	上大野、下大野、稻荷、大場、石崎、磯濱、大貫				
		十月	十日	上中妻、鯉淵、下中妻、中妻、渡里、山根				
西茨城郡	西茨城郡 笠間町役場	十月	九日	宍戸、大原、岩間、南川根、北川根、大池田、西山内、東那珂				
		十月	十日	南山内、北山内、七會、岩瀬、北那珂、笠間				
那珂郡	茨城縣廳	十月	六日	中野、勝田、川田、佐野、額田、村松、石神				
		十月	七日	神崎、菅谷、五臺、柳河、國田、戸多、芳野、木崎				
		十月	八日	瓜連、靜、大場、上野、大宮、大賀、玉川、鹽田				

久慈郡	久慈郡	元自治會館	十月十日	山方、檜澤、小瀬、野口、長倉、八里、巖郷、湊、平磯、前渡
多賀郡	多賀郡	助川町役場	十月七日	機初、世矢、坂本、東小澤、西小澤、佐竹、賀美、郡戸、久米、金郷、世喜、金砂、天下野、高倉、染和田
鹿島郡	鹿島郡	鹿島町役場	十月六日	山田、譽田、佐都、河内、中里、小里、幸久
行方郡	行方郡	麻生町役場	十月八日	生瀬、宮川、黒澤、依上、佐原、大子、久慈、上小川、下小川、諸富野、太田、袋田
稲敷郡	稲敷郡	江戶崎町役場	十月九日	華川、關南、大津、平湯、關本、南中郷、磯原、高岡、楢形
新治郡	新治郡	石岡町役場	十月十日	豊浦、黒前、松原、松岡、日立、日高、鮎川、坂上
			十月六日	國分、河原子、助川
			十月七日	夏海、沼前、巴、徳宿、諏訪、大同、高松、波野、輕野
			十月八日	波崎、矢田部、若松、大谷、鉾田、新宮、中野、息栖、豊郷
			十月九日	上島、白鳥、豊津、鹿島
			十月十日	延方、八代、潮來、津知、大生原、大和、玉川
			十月十一日	津澄、要、武田、秋津、立花、現原、玉造
			十月十二日	行方、小高、手賀、麻生、香澄、太田
			十月十三日	阿見、朝日、奥野、岡田、莖崎、牛久、舟島
			十月十四日	江戶崎、君賀、沼里、鳩崎、安中、木原、君原、阿波、古渡
			十月十五日	龍ヶ崎、伊崎、長戸、八原、馴柴
			十月十六日	上天津、下天津、美並、牛渡、佐賀、安靜、志士庫
			十月十七日	七倉、都和、藤澤、斗利田、山ノ莊、榮、栗原
			十月十八日	關川、高濱、田余、玉川、石岡、三、志筑、新治
			十月十九日	関部、瓦倉、林、戀瀬、樺穂、柿岡、小幡、小櫻
			十月二十日	眞鍋、九重、中家、東、土浦

筑波郡	筑波郡	谷田部町役場	十月六日	長崎、三島、鹿島、葛城、旭、大穂、小張、福岡、小田、吉沼
眞壁郡	眞壁郡	下館町役場	十月七日	高遠祖、鳥名、十和、作岡、眞瀬、久賀、田水山、谷井田、上郷、北條
結城郡	結城郡	元自治會館	十月八日	豊、菅間、板橋、田井、筑波、小野川、谷田部
猿島郡	猿島郡	古河町役場	十月九日	竹島、養蠶、河間、大田、嘉田生崎、小栗
北相馬郡	北相馬郡	元自治會館	十月十日	中、村田、五所、新治、伊讚、古里、河内、川西
			十月十一日	下妻、騰波ノ江、上妻、關本、長讃、大國
			十月十二日	大寶、鳥羽、上野、黒子、眞壁、樺穂
			十月十三日	大、雨引、紫尾、谷貝、下館
			十月十四日	宗道、蠶飼、總上、豊加美、飯沼、岡田、石下、玉、豊田、大形
			十月十五日	水海道、大生、三妻、五箇、大花羽、菅原、豊岡
			十月十六日	中結城、名崎、安靜、下結城、西豊田、山川、上山川
			十月十七日	結城、絹川、江川
			十月十八日	弓馬田、飯島、神大寶、岩井、七郷、中川、境、長須
			十月十九日	杏掛、七重、逆井山、生子菅、森戸、猿島、幸島
			十月二十日	八俣、長田、靜、五霞、香取、櫻井、岡郷
			十月二十一日	勝鹿、新郷、古河
			十月二十二日	菅生、坂手、内守谷、小絹、大井澤、大野、高野、守谷、高井、稻戸井
			十月二十三日	山王、寺原、取手、井野、小文間、六郷、相馬

以上の外延期町村に對しては十月十一日龍ヶ崎町役場に於て調査上の打合を遂げ重複脱漏なきを期すべく詳細なる注意を與へ十月十八日を以て是等各町村何れも精査の上調査書類を提出し國勢調査事務は之を以て全く終了したのであるが、右延期町村中稲敷郡大須賀村では萬難を排して十月一日に施行した。

激勵と感謝

長谷川内閣統計局長には縣下水害地二百二十六名の國勢調査員に對し左の如き見舞と激勵の書を發せられた

拜啓今般の水害に際し貴地の被害定に甚大なる趣衷心より御見舞申上候

扱本災害の爲貴地方に對しては國勢調査員の職務執行期間を延長し更に一層の御努力を煩はすの已むなきに至り候處災害直後の實査には意外の困難と煩雜の伴ふもの有之べきも國勢調査は國家必須の重要調査にして一地方に於ける調査の不完全は延て全國に於ける調査結果の正否に影響すべきものなるに鑑みられ國家の爲最善の努力を以て調査の完璧を期せられる様切望に不堪候

茲に水害の御見舞を申述べ併せて一層の努力を希上候

昭和十年十月八日

敬具

内閣統計局長 長谷川尠夫

思はぬ災禍に遭ひながらも優秀なる成績を收めて完了した

縣の國勢調査事務に

「優良町村吏員がお手傳ひ

別記の如く國勢調査書類檢閲に當り縣では町村に於て常に統計事務に従事し其の成績優良なる者の内より三十名を撰び縣係官の補助として囑託したが、何れも熱心に調査事務に従事され、豫定通りの期日に完了することを得た、左に其の氏名を掲げ感謝の意を表すると共に役場事務多忙の中に特に囑託することを承認された各町村長に深厚なる謝意を表する

東茨城郡吉田村書記

小室辰正	寺門眞一	藤地伴介	船橋延吉	榎戸秀男	根本富男	那珂郡佐野村	菅谷村	久慈郡太田町	賀美村	多賀郡助川町	日立町	鹿島郡大同村	鹿島町
正	一	介	吉	男	男	治	治	介	勝	彦	男	爾	雄

本縣の國勢調査に就て臨時國勢調査部長たる山本總務部長は左の如く懇篤なる感謝狀を縣下各市町村長に送り、併せて調査員に謝意を表した。

拜啓 時下秋冷の候愈々御清適奉賀候

扱國勢調査に關しては多大の御配慮に依り豫定の通り順調に進行致居候處縣南地方の大水害に依り同地方の國勢調査員職務執行期限延長の已むなきに至り候得共去る十月十八日全部の提出を見候に付同夜より翌朝に亘り凡ての整理を遂げ十九日午後全國第三位(第一富山、第二千葉)の好成績を以て進達致候

調査に差迫り非常なる災害を蒙り全國に其の例無き調査期間延長を爲したるにも不拘斯の如き優良なる成績を擧ぐるを得たるは偏に各市町村當局の格別なる御盡力と調査員諸氏の献身的努力の賜と深く感佩致居候

茲に本調査の完了に當り一言御挨拶申述度如斯御座候調査員諸氏には貴下より宜敷御傳言被下度候

昭和十年十月廿一日

茨城縣臨時國勢調査部長

總務部長 山本秋廣

各市町村長殿

行方郡麻生町	武田村	稻敷郡江戸崎町	君賀村	新治郡新治村	岡部村	筑波郡谷田部町	眞壁郡下館町	下妻町	結城郡宗道村	玉村	猿島郡新郷村	古河町	北相馬郡取手町	文村
正木邦司	青木淺次郎	鈴木岡書	澤部健作	岡田武四郎	大槻好彦	富澤泉	飯中健兒	高野澤長	小澤訓一	染小宗一郎	佐藤三郎	大森竹次	森茂衛門	篠田穰浩





國勢調査美談

涙なしには聞かれぬ

数々のエピソード

吉凶禍福は常に定めなく、生きとしけるものいつ何時、如何なる事件が突發するかわかるものぢやない、今度の國勢調査にあたりても、十月一日午前零時と時を限つて六千の調査員が總動員され、津々浦々にいたるまで分秒を争うて國のために活躍されたのだから、そこには悲しきこと、喜ばしきこと等々、得意失意のエピソードが必ず織り込まれるに違ひないが、わけても本縣には恰も大水害の襲來あり、生命財産にまで甚大な危険を及ぼし、一層調査に困難を來たしたやうな關係から涙ぐましい物語は各所に随分と聞かれる、その中の二三を左に摘記して見よう

愛兒の死目にも逢はず

國調の重責を果す

久慈郡賀美村國勢調査員井坂光太郎君は賀美の第十二區擔當國勢調査員であつた、村の指示に従ひ本調査の完璧を期せ

査困難な處は舟を以て各世帯に臨んだり、泳いで世帯主を訪ねたり、萬難を排し調査事務につくされた。

○ 稻敷郡大宮村第十三區國勢調査員湯原四一君は全調査區が一面泥海と化し屋上の棟だけが点々として水面に現はれてるといふ一番ひどいところであつたが、君は一方區長として罹災者の救護に全く自己を捨て、従事しながら一面國勢調査事務に當りあらゆる困難を嘗めて擔當區の完全なる調査を遂げた。

○ 北相馬郡文村書記後崎浩君は自村亦激甚な水害地で救護其の他の事務に多忙なるにも拘はらず進んで隣村東文間村に出張し國勢調査事務の援助を爲し以て遺憾なき調査を完了させた。

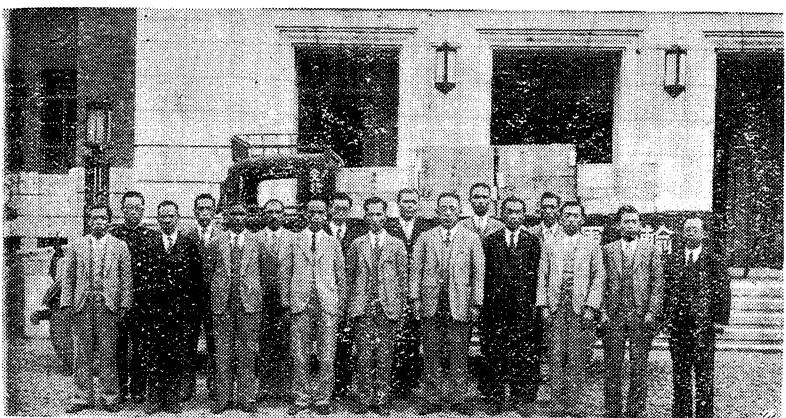
○ 北相馬郡東文間村國勢調査員第一區吉田政雄、第五區糸賀喜一郎第七區森田磯之助の三君は孰れも區長の職に在り専ら水害罹災者へ物品の配給等水害救護事務に従事し多忙を極めてゐながら國勢調査員として文字通り寢食を忘れて之が事務にあたり、調査の萬全を期すことを得た。

んとし九月二十九日三十日に涉り各世帯員の異動の有無並に臨時來客者の有無等調査の爲巡回中突如二十九日午後三時頃長女利子(八歳)さんが發病危険に迫り区内の人達まで枕頭に集り醫師と薬と大騒ぎをしたが井坂君は之を押し下調査を済ました、十月一日村の係員が監督の爲巡回した際之を聞き込みいたく同情し、我子の大病とあつては致方ないから係員指導の上豫備員をして調査させることを相談したところ國家的大事業の前には一家の私事になぞかまけてはをられないとて利子さんが將に息を引きとらうとするにも拘はらず係員と共に見事に責任を果したが、あはれ利子さんはその日午前十一時遂に死なれたといふ、同君は曩に統計事務成績者として知事から表彰を受けた井坂龜之介氏の長男である。

身を殺して國勢調査に

水害地の調査余聞

○ 稻敷郡源清田村は先頃の大水害で最も甚大な影響を被り國勢調査も延期されたところである、こゝの國勢調査員第五區織原清一、第六區沼崎芳造、第七區堀江直義、第八區渡邊勘藏第九區佐川角榮の五君はその水害に際し無論めい／＼も被害者の一人で家も財産も全く危険に瀕したにも拘はらず他の罹災者の救護事務に従事するは勿論、國勢調査についてはその重要性に鑑み家も忘れ身も忘れて調査を進め冠水深くして調



……に心中を長課崎川……

に前のクツラトくべす達進へ局計統閣内を類書査調了完を査調勢國
影撮念記の員課計統縣

教育勅語を降し給へる

十月三十日午後五時

茨城會館に於て

出席縣統計課員全部



國勢調査座談會

調査員の職務執行期間延長——要するに國勢調査の延期だ——全國にも全く其の例を見なかつた特異な新例を開いて我が茨城は、國勢調査史上に非常事案を記録したにも拘はらず、全國第三位。しかも第二位の千葉縣と僅々三四時間の隔差を以てこの優秀な成績を勝ち得た。そこには、おのづから大いに誇るべき首脳部の方針——作戦——もあつたらう、その他部員、六千に餘る調査員、各市町村當局の意氣込も異つてゐたらう、熱もあつたらう、協和の精神も無論大いに與つて力あつたであらう、わが統計協會では長くも明治大帝が教育勅語を降し給へるゆかりの日、十月三十日午後五時から茨城會館に於て縣統計課員の座談會を開き約二ヶ月に亘る活躍の跡を顧みた。全員出席、『あの水害さへなかつたら茨城は斷然一等だつた』遣る瀬なき無念

の中にも、今度こそキツト勝つといつたやうな茨城男子の負けじ魂ひが、眉宇の間に輝きあふれて見えた。

川崎課長 昭和十年の國勢調査も滞りなく完了いたし茲に諸君と其の體驗を語るにあたり、先づ以て一言御挨拶を申上げておきたいことが御座います、今回の國勢調査は、その調査項目から申しますれば誠に簡易のやうであります。が仕組みは昭和五年の本調査と何等異なつてをりません、本縣では臨時國勢調査部を設け、山本總務部長を部長とし、諸君を部員として協力一致統制ある活動にはいつたのであります。中途本縣々南、特に稻敷、北相馬方面に未曾有の大水害を見、思はぬ支障を來たしましたにも拘はらず、諸君は調査部員としてこの調査の完璧を期し、殊に水害地にありましては全國に前例なき調査員の職務執行期間延長の餘儀なき事ともなり、調査事務益々困難と相成りまするや、諸君は一層奮ひ起つて

事務のために精進されました結果、十九日に關係書類全部の取纏めをはり同日午後内閣統計局に進達する事が出来ました、しかもさうした幾多の困難支障がありましたにも拘はらず、全國第三位といふ好成绩を勝ち得ましたことは一に諸君が奮闘努力の賜に歸着するのであります、感謝と喜びに堪へない處であります。申す迄もなく國勢調査の如き國家的大事業は、官民の誠意ある協力一致によつて初めて成績をあげうるものでありまして、前申上げました如く本部にありました諸君の御奮闘と、縣下六千六百の國勢調査員各位、三百八十ヶ市町村の係員の方々が、しつくり心を協せ得たればこそ今度のやうな好成绩を挙げ得たのであります、茲に御出席の諸君と併せて關係各位に厚く感謝の意

を表する次第であります。これから座談會に移ります、この記録的な國勢調査に當られました諸君の經驗なり御意見を忌憚なく御發表を願ひたい。先づ第一に

調査員の選任と縣會議員選舉

に就て御意見を承りたい、このことについては當時國勢調査と選舉期日とが極めて接近してをりましたので、調査員の推薦につきましても充分注意を拂ひました結果、選舉關係で調査員の解任交迭等を行つた数は極めて少なかつたのであります、これに就て小林屬のお話を承りたい

小林屬 私の擔當しました行方郡の縣會議員選舉は幸ひ無競争でありました關係で調査員は一名の異動もなく濟みま

したが、今度の國勢調査員の選任にあたり統計調査員を優先的に任命したのは大いに効果があつたと思ひます、國勢調査員の中に統計調査員が二千四百七十人もありましたし、前回の調査員だつたものが千八百十四人もあつて、

是等調査に練達の人達が各地にをりました結果、圓滑に事務が運ばれ成功を遂げ得たやうに思はれます、かうした次第で縣下全体に、調査員と選舉との關係は懸念された程のことなく濟んだやうであります、多人數のことですから表面に現はれなかつたものもありましたでせうが、調査員で選舉に關係して解任したものが十一人、その内違反が三名ありました、たいした事故もなく斯く圓滑に事務の進捗をみましたのは課長の方針がよかつたからだと思ひます。

成瀬屬 私の擔當多賀郡では問題がありましたので一人解任しました、それは河原子町のことではありますが、あそこ

です。

小泉屬 いや近頃の安靜はそんな横着ぢやありません、とてもよくやつてゐます。

虎口屬 那役所といふ中間機關がなくなつたので町村吏員の方の氣込みが違つたのでせう。

川崎課長 兎に角、那役所時代と今日では隔世の感があることを言ひうるでせう、あらゆる方面に進歩發達したのだから……次に

豫習調査に就て

は、この前も縣下各町村全部に亘つて行ひ、今度も同様行つたのであります、結果は大變良かつたやうに考へられます、これについて一つ御意見を……

虎口屬 豫習調査を實施致しますことは申告者をして其の記載方の練達をはかりますと調査の重要なことを認識させることにあるのです、今度も前回同様本調査の結果は大變宜しいやうでした

では國勢調査費の豫算等の關係もあつたのでありませうか？統計調査員を使はずに町會議員を全部國勢調査員に選任したのです、そんな關係で勢ひ選舉に全然無關係といふわけにもいかなかつたことと思ひます。

川崎課長 選舉關係のことはこれ位にとゞまして次に

調査員の訓練指導

に就て郡司屬に承りたい。

郡司屬 小林さんの申される如く國勢調査員の大部分が統計調査員でありましたし、その他の者でも國勢調査員たることを非常に名譽なことに考へてをられますので指導訓練會などへ來られましても頗る熱心の様に見受けられました、久慈郡の太子町で開きました時など恰度舊盆であり、おまけに雨の日でしてツイ汽車の時間に遅れてしまつたといつてハイヤーを飛ばして次の停車場で汽車に追いつき、やつと時間に間

たゞ豫習であるといふので輕視する傾きがあるかに思はれます、どういふものか知識階級にそれが多いやうです、これは例外ですがある知識階級の者が豫習に十枚も書き損じを作つたといふ話もあります。

成瀬屬 知識階級の者に對しては調査員もそのつもりで、クドクしく言はないでもわかるだらう位で、碌に説明もしないし又先方でも身にしみて聽かぬかういつたことが比較的間違ひの因となるのではありますまいか。

川崎課長 豫習用紙の注意なり記入例なりを見ればわかる筈なのだが、あれをよく見てないのかな……

虎口屬 見ないといふことになるのでせう。

渡邊屬 私の方には學校の校長あがりの人でヒドク誤つてゐるのがありました、處がこれは其の人ばかりでなく、そこから近所皆違つてゐるので段々調べてみると『あの人は物識りだから、あの人

に合はせた人などもありまして、非常に眞面目に研究されました、一般に訓練會の集りはよかつたやうです。

川崎課長 指導訓練の集合は五箇町村以下といふ話もありましたが今度のは五ヶ町村以上のものが多かつたやうです、旅費等の關係でさうしたのだが、其の割に出席歩合が大變よかつたのはどこの郡でもその重要性を認識せる結果だと思ひます、次に

郡廢前と今日の町村の國勢調査事務

について御意見を伺ひませう。

成瀬屬 那役所廢止前と今日では格段の違ひがあるやうです、第一期限を勵行されるのが目立つて良くなつてゐます、大正十四年の國勢調査の時でしたらうか、結城郡の安靜村が期限内に提出を怠つて譴責されたことなどもありましたが、あれなどが相當刺戟になつて一般に注意するやうになつたやう

に頼めば間違ひない』といつてその校長さんに頼んだものだから、ドレもコレも間違つてしまつたのです、間違つた人に頼んだのだから間違ひのは當然です。

虎口屬 本調査には間違ひがなかつたのですから豫習調査も、多少し注意してくれると完全なものになります、それには豫習の趣旨を更に徹底させる必要があるかと思はれます。

郡司屬 豫習調査に何としても「判」を押さない人があつて困つたといふことを聞いてゐます、是れなども豫習を輕んずる一證據ともみられませう。

虎口屬 文字は明瞭に墨又は黒インキにて記入するとあるので、何んでもかんでも毛筆でなければいけないものとして考へて、一調査區全部毛筆で書かれた處がありました、これは調査員の考へ違ひからやうしたので、豫習に之を發見しましたから注意を與へ本調査には萬年筆を認めたやうです。

川崎課長 指導が徹底しないからそんなことになつたのでせう。

虎口屬 外の調査員にはその邊は良く徹底してゐたのですから、その調査員だけが耳でも遠かつたのでせう。

エピソード

こゝで、何でもかでも墨痕鮮やかに毛筆で書かなければ駄目だといふ所謂純日本主義の擡頭から、圖らずも西洋化されたペン黨との間に面白いエピソードが飛び出して會場一ぱいに和やかな氣分が漂つた。それが謹嚴そのもの、如き郡司屬と渡邊屬から出てゐるのだから一段と興味を引いた、モ一つは虎口屬が可愛い坊つちやんのいたづらから思はぬ縮尻を出かしたといふ奥さんにも聴かされぬ話。

郡司屬 豫習調査の時ですが、實をいふと私は一生一代の腕を揮つて——ハラの中では調査員が擔當區内の模範にでもしてくるかといつたやうな淡い誇りを持ちながら嚴肅な氣持で申告書に

クスグツたいものですね。

虎口屬 これはどうも自分の家の恥ぢを曝すやうで大事に仕舞つておいたんです、それも氣がとがめるししますのでお話をします。

私が國勢調査事務で出張先から歸つて來ますと市の係員から

『あなたの處の世帯札が貼つてないがどうした、一旦貼つたものを誰かハガしたらしいといふので市役所へ申報して處置を仰ぐことにしました』

といふので驚いて市役所へ聞き合せたり、家族の者等を一人々々調べてみたり、調査員が外の家は一人々々自分で貼つて歩いたが、私の處は統計課員といふので特別待遇に、之を表へ貼つて下さい、と世帯番號札を家族に渡して行かれたさうです、この別待遇が間違ひの原因で、家族の者はソレを火鉢の抽斗へ仕舞つておいたのを三つになる兒が持ち出して、ドコかへ紛失してしまつたことがわかりました、どこの家

記載し、折柄やつて來た調査員に渡しますと、調査員は暫く見てゐましたが『これはペンで書いてはダメです、上の注意がきにもある通り墨又は黒インキといふのですから毛筆で丁寧に書いて下さい』といつて何としても肯かない仕方がないので實は斯々の者だといつて名刺を出して見せたが、またわからぬ、最後に『それではよく考へて來ますから』といつて半信半疑の体で歸つて行きましたが、すると翌くる朝に又やつて來て

『昨夜一晩考へて見たが、どうしてもペンではいけません、統計課に勤めてるなんてこれ位のことかわからないでは我々迄迷つてしまひます、毛筆で書き直して下さい』

と、きついお叱言を頂戴しましたから金十錢をフン發して墨汁を買ひ、やつとのことで通過さして貰ひました、仄かに聞きますのにその調査員は自分ひとりでは判定がつかないので二三人知

にも貼つてありますのに私の家だけポツンとぬけてるのに氣付かなかつたといふのはツマリ家族の者への訓練も足りなかつたわけで何とも恐縮に存じてゐますが、調査員が世帯番號札を自ら貼付せずに、家人に渡しつばなしにしたのも手落ちであつたらうと思ひます調査員を卑近な例にあげたことをお詫びしておきます。

川崎課長 大變興味あるエピソードを拜聴しました、お話の中にそれ／＼教へられるところがあるやうです、次ぎに

準備調査について

先づ齋藤君のお話を承ります。

齋藤囑託 準備調査の状況視察は各々分擔して縣下各地へ参りましたが私は九月二十七日、川崎課長殿及び虎口さん、福田さんと一緒に鹿島、行方兩郡へ向ひました、私は今回が初めての國勢調査でありまして指導訓練がどうかと内心大いにビク／＼したのですが、夏

り合ひの調査員に相談した結果が、どうしてもいけないとなつたのださうで先きでは統計課員をイヂメつけた位に考へてをることとせう。

渡邊屬 私は郡司君のところがつてケナされたんでなくてホメられて恐縮したのですが、十月一日の朝早く調査員が申告書を集めに來ましたから早速渡してやりました、無論私も名譽にかけて一劃一点もゆるかせにせず、丹念に記載したのでありますが、私の申告書を一眼見た調査員は

『これは満点だ、これは満点だ、氏名の記載といひ、生年月日といひ、こんなふうには本職だつて容易に出来るもんぢやありませんよ』

といつて『これは満点』を繰り返し、繰り返し、我が町内にこの模範的世帯主あるを誇りがほに出て行きました、何ぞ知らん斯く申す渡邊が統計の本職であることに一向氣がつかなかつたんです、褒められて悪い氣持はしません

海から諏訪迄は世帯番號札もよく貼つてあるし、これならばとホツとしたわけです、眞面目だからと安心してゐた上島村波上へはいるとドコにも貼つてない、早速課長さんにお目玉を頂戴しました、どうした行違ひかと調べてみましたら、波上第十一區の國勢調査員菅谷氏が、二十六日に親戚に不幸が出來、この人が立會はなければ葬式が営めないとかいつて親戚方へ急行し翌日葬式のこと近所の者に頼んで歸宅し私共が自動車を通つたあとで準備を済ましたことがわかりました、鹿島を過ぎて一路波崎町へ行つてみますと二十六月は出來なくて二十七日に準備調査をやつたさうですが、何んでも調査員が自分方の田が冠水して稻を刈らないと芽が出てしまふといふので二十六日には出來なかつたのださうです、お氣の毒なことです、戻りに又鹿島町へ出ましたが、茲は大そうよく出來てゐて神宮前の鈴木といふ調査員など鼻高々

と待つてゐました、中野方面もよくやつてゐました、世帯番號札の貼つてなかつたのは上島だけで私はホツと重荷をおろした氣がしました。

虎口屬 私は行方郡の状況について申し上げます、私達の通りました沿道には世帯番號札の貼付漏れがよい／＼目につきました、かく手の廻らないのも水害の爲と考へられますが、一應電話で夫々其の村へ通知して置いたのです、玉川村は有名な西蓮寺の法會にも差しかゝつてをりましたので、どうかと思つて役場へ行つてみますと、郡擔任の小林さんからの注意もありまして極めて完全に準備が出来てをりました、それから玉造へ行つてみますと茲は一つも準備が整つてゐない、途すがら第二調査區の出澤氏を訪ねると不在で要領を得ない、第三調査區の鈴木氏を訪ねると、之れは以外準備調査つてどういふ風にやるのですかなんてテンデ何時やるのか頭にはいつてゐないので、

要するに役場の指導が足りなかつたので課長から注意されてヒドク恐縮してゐました、玉造は今一段の注意を要すると思ひました。

川崎課長 玉造は調査員の會議だけは開いたが指導が充分でなかつたやうに思はれる、次に

今回の水害地方の國勢 調査員職務執行期間延長に就て

稻敷郡擔當の關君にお願ひする

關 屬 九月二十四、五兩日に亘り降りつゝいた雨が遂に北相馬郡高須村地先小貝川堤防の決潰となり、北相馬、稻敷兩郡の一部とは申しながら相當廣範圍にわたる今回の大水害となつたのであります、時恰も國勢調査の直前に際會してをりました、果して十月一日に調査が出来るか、刻々に來る報告では調査員の職務執行が頗る困難に思はれ

相當期間の延長をしなければならぬやうな必要に迫られました、私は虎口、郡司、高島の諸君と共に被害状況視察のため出張を命ぜられ、同二十八日龍ヶ崎方面は郡司、高島兩君、大須賀村方面は虎口君と私と、この二班に分れて調査を行いました、最初大須賀村へ參りました處、郡南部の大半を占めるところのあの廣大な水田は一面泥海と化して水稻は影だにみせない、家といふ家は悉く水浸しで屋根だけが濁水の中に浮いてゐる、この慘澹たる光景に接しまして、私共は唯驚きの眼を見はるばかりでした、期日に國勢調査を行ふことは全く不可能であつたのです、

それから伊崎、太田、柴崎の各村を視察しましたが是亦同様の慘狀に胸つぶるゝ思ひして根本村役場に引あげると、郡司、高島兩君も見えられ、何れ聞きしにまさる慘狀でありました、そこで四人協議の上調査不能町村を定め、更に江戸崎警察署に到り警察電話を以て

虎口屬から縣へ詳細に報告しました。

時恰も内閣統計局から華山統計官が來縣されてゐると聞き、翌朝早々に歸廳して共々評定の結果、稻敷郡下で大宮生板、源清田、長竿、根本、柴崎、太田、金江津、十余島、本新島、浮島、大須賀の十二ヶ村を延期することに決定、北相馬の分と併せて急遽課長殿が上京の結果十月十五日迄延期といふことになつたのであります。

この内、大須賀村では内閣統計局長から水害見舞を兼ね國勢調査についての激勵の電報や書面が、水害地の調査員全部に配られたのに感激し、主任者が非常な努力のもとに十月一日に決行してしまつたのです、又龍ヶ崎町も甚大な被害を受けましたが當時同町には縣の罹災民救済本部がおかれ縣官その他の出入極めて繁く調査を延期する時は脱漏又は重複等のおそれがないとも限りませんので課長の命を受け町當局と協議の結果十月一日に決行することに

したのであります。

かくて十月十一日水害關係の北相馬を含む調査主任者の會議を龍ヶ崎町役場に開き水害地における調査方法の打合せを行ひ、越えて十八日再び同所に關係町村の集合檢閲をなし十九日午後本縣關係書類全部を統計局に進達するの運びにいたつたのであります、重ねて申上げますが内閣統計局長の見舞と激勵の書面は調査員をいたく感激させ、身を捨てても責任を果すといつたやうな雄々しい覺悟を抱かせたのであります。

菊池主事補

私は北相馬郡の布川と相馬とを視察しました、初め布川町へ向ふべく龍ヶ崎迄まゐりますと高須地先の小貝川堤防決潰のため一面に冠水して行かれませんので佐貫に引返し、我孫子を廻つて布佐から布川へはいりましたが町は八分通り浸水し、縣道は六尺程の濁水の下に沈んでをるといふ有様でどうすることも出来ません、折よ

く通りかゝつた消防手の救護船に便乘してやつと役場へ行つてみると林助役はしめ全戸不在の体でありましたが、暫くすると助役がボロ服にゴム長で歸つて來ました、何しろ町全体が水の中に埋もれてしまつたのだから無論何も準備されてゐない、また準備も出来ないうなることかと心配してゐました、ど返して相馬町を視察した、案外こゝは平靜で照査表の記入も、世帯番號札の貼付も間違ひなく出來てをりますので堤防欠潰の高須村へ自轉車を飛ばしました。利根の逆流は小貝川の水と合して、物凄い勢ひで村へ村へとヒタ押ししやうなき慘狀でありました、役場で助役や主任書記とも會つたが、唯おろ／＼心配してゐるだけでした、かうして水から水へと、水の間をくゞりぬけつゝ、つぶさに状況を視察の上歸廳し

て課長に詳細を報告し、更に翌日又水害地の避難民状況視察のため齋藤さんと出向きました。

最初取手警察署を訪ねますと、警察署は救助人を調べるだけで、避難民の數など調べる餘裕はないといふ挨拶なので仕方なく井野村へ行つてみました。避難民はありません、小文間村も同様避難民はありませんが水防やら罹災民の救助で轉手古舞ひしてゐる、國勢調査が延期出来るなら、さうして貰ひたいといつてゐました、それから高須村へ赴く途中に文間の村長と文村の助役に會ひましたところ、どちらも十月一日にはとても出来ぬから延期してと懇談的に申されました、高須、六郷を経て、川原代へまゐりますと茲は村の半分位浸水し、避難民も相當に見受けたのであります。

以上の如き状況で高須外六ヶ村は延期しなければ迎も調査は不可能だと考へまして夕刻その旨電話で報告しますと

華山統計官が午後五時二十九分水戸着の列車で來られるから同列車で歸るやうにといはれまして駈足で附近の停車場にたどりつき歸廳したのですが、文

村の篠崎書記は自分の村もひどい水害で役場事務の極めて多忙ななかに十七日には隣接東文間及び北文間へ赴き、申告書を照合して出入關係の檢閲を手傳ふなど、非常な援助を與へられたのは水害美談として稱揚すべきものと思ひます、

川崎課長 水害地の非常手段につきましては大体以上で盡きたやうに思はれますから次の

檢閲並に要計表其他書類取纏めに就て

高島君のお話を承りたい

高島嶋 豫習調査の檢閲の時、最初の東茨城をやりますのに二ヶ町村つゝ組合せ統計課員が全部で朝の九時から互審調査を行ひ午後四時迄かゝつたが、さ

て自分が擔當郡に臨みますと、自分一人で見なければならぬ、普通にやつたんでどんなにしても五日間はかかるわけになるので、最も少ない時間で最も大きい効果をあげるには一体どうしたらいいか、經濟學の原則に則つて大いに考究しました結果、自分一人の奮闘だけぢや駄目だ、出席者全員で互審することにしたからやうかと考へ

浮んだのであります、つまり到着順に一ヶ町村毎に出席者が全員で一々目を通し、不備な点があつたら成るべく細かに備考欄へ書きつけておいて終りにこの不備な点をそれ／＼指摘し、互ひに話し合ふやうにしましたなら、出席の町村吏員は全部各町村のを見ることがになり、どこの町村は良かったとか、どうであつたかといふことがわかるし従つて自分の町村の研究にもなり貴い参考にもなると考へたのであります、町村へ歸りましてから調査員を集めて其結果を話して参考にすることもよく又訂

正をさせるのにもいゝ資料になると考へました、以上は豫習調査の檢閲について私の考へたところでありまして本調査にも之を應用するのが便宜であると思ひました。

本調査には照査表と申告書との讀合せも必要だし、ソロバンも入れなければなりませんから縣から集合通知のあります前に二ヶ町村つゝ組合はして照査表と申告書を對照させ、ソロバンは縣から囑託した人々に入れて貰ふことにしたらよからうと考へたのであります互審檢閲につきましてはそれ／＼縣の方針もありますので之を實行するかたはら私案を加へて實施したことを申上げた次第であります、かうして一度に各町村が集つてそれ／＼内容を檢査されるといふことが町村當事者の注意も惹き、發奮をさせることにもなるのではあるまいかと思ひます。

川崎課長 最後に調査上に於ける今後の希望について、どなたか御話を願ひた

い。

小泉屬 只今高島さんの申されました互審會といふことは、若し不備があると多勢の前で恥をかくといつたやうなもので、一つの刺戟ともなりますからこの互審制度を擴大してあらゆる方面に利用しましたら内容が完備することになると思ひます。次に調査員の人選といふことも簡単なやうでなか／＼六ヶしいと思ひます、何事によらず其の人を得ませんければ大成は望めないのであります、わけても統計的業務につきましては、其の人を得たと得ないによつて成績の上に大きな影響があるやうに考へられます、國勢調査におきましても結局調査員の人選を誤つた町村は苦んだやうに思はれます。

更に宣傳等について吉見屬其他の各氏から種々な意見や希望が述べられたが、國勢調査の重要性を帯ぶること及び一般的概念については既に充分徹底されてゐるこの上宣傳するとならば官衙とか大工場

方面だけである、地方的には太田町で試みた部落懇談會の如きものが相當効果的であらうといふに大体意見の一致を見、川崎課長の挨拶で意義あるこの座談會は閉ぢられた。

國勢調査員の光榮

先頃の國勢調査に従事した國勢調査員に對し、今回宮内省より新宿御苑及び京都御所、二條離宮の拜觀を差許さることゝなつた、拜觀希望者は市町村長において取りまとめ縣を経由するもので、服装は非禮に亘らざる程度(洋服を便利とす和服の場合は袴着用のこと)にし、履物は成るべく靴又は草履がいゝやうである。



懸賞人 → 口 → 豫 → 想

適中者はないらしい

應募概況

百五十二萬以上	一
百五十三萬以上	一
百五十四萬以上	一
百五十五萬以上	一
百五十六萬以上	四
百五十七萬以上	二
百五十八萬以上	三
百五十九萬以上	一
百六十萬以上	一

本誌が懸賞募集した國勢調査の結果に依る本縣の人口豫想は、多大の興味を以て迎へられてゐたが、締切間際に至り例の大水害となり、一方また冷害騒ぎとなるなど思はぬ支障を來たして締切日迄に四百七名の應募者があつた。

昭和九年の十月一日に調査した現住人口は其の調査方法を異にし公簿上の調査を基としてあるので、實數とは相當の開きがあるのが常であるから九月號の本募集記事中に掲げた國勢調査の比較を基礎として算出すれば大体近き數が判明するのであつたらうが、昨年の人口に重きをおき之に相當の自然増加を加へた數を記載した向きが多かつた、これを要するに、本縣人口の傾向

がまだはつきりのみこまれてゐなかつたのと、應募者の研究が足りなかつた事も一つの原因であつたらう。

兎に角縣の特別調査區域を除く人口は百五十四萬三千であり、特別調査區域を加ふるも百五十五萬を出ないから適中者は先づ無いと見てよからう、しかも適中に近い者も左記の様なものでも一抹の淋しさを感じる次第である。

次回の調査の頃には本縣人口に關する知識も加はり、もつと多くの應募があらうし、一段とキワどい處を見せて興味をわかすことにならう。

尙ほこの發表は豫備の程度のもので正式には規定の通り内閣統計局の結果速報人口を待つて發表する。

處生訓

己れを知るは眞の進歩なり

ハンス・アルダーセン

極樂を願はんより地獄を作るな

楠正成



實務道場

統計調査の葉

[6]

☆……統計が進歩し統計が利用されることに

☆……よつてはしめて完全なる國策は生れる

水害の原因と造林の關係

冬季調査の苗木について

利根川の氾濫に依りて水源群馬縣と下流のわが茨城縣は甚大な被害を蒙り、今や被害地の復興と救済對策に遺憾無きを期しつゝあることは既に御承知の通りであります、此の水害の原因を考へ是に對する適切な處置を講じますることは將來に及ぼす最も大切な事業であると思はれるのであります。

然してその原因は雨量の多かつたによる事勿論であります、が、造林事業との關係もまだ大いに考ふべきものであることも否みがたいところであらうと思ひます。

統計上に現れた林野の面積は大体に於て毎年大した相違は

無いけれども、農村經濟の不況を補ふために相當の樹齡に達したものが伐採せられ、山が新らしくなると云ふ事も原因の一つであると思はれるのでありまして、此れに就ても今後各種の新たな計畫が生ずることでありませう。

是等の問題と直接關係のある造林用苗木の調査を冬季調査として各調査員が調査するのでありますが、それには先づ其の調査区内の苗圃の有無を調査し、苗圃の有る場合は作付反別調査原簿に依り造林用苗木調査票に其の地番、調査原簿面反別を記入し、經營者の區別と各樹種別の苗圃面積及其の樹

種別の山行(次年)に於て山地移植に適するもの(の)苗木数を調査するのであります。

苗圃に依りては山行の無い場合もありませんが、其の場合

には苗圃の面積のみを調査すれば宜しいのです。尚冬季調査としては果實の調査があるけれども此れは九月號に記載したから本號には之を省略します。

米

(市町村報告期十二月十五日限)

本表作付反別は米第一回豫想收穫高報告の際記載したる同一資料に依り計上すべきものなるに往々符合せざる向がありますから充分注意を要します、若し調査不充分のため相違を來たした場合は訂正報告をすると共に其の事由を詳細に數字を以て備考に説明されたい。

收穫高は米生産統計調査方法(本誌七月號)に詳細説明してあります参照されたい)に依り實地調査したる各調査區の結果表を集計して計上するは勿論でありますが違算せる向もあります特に注意されたい。

價格に據ることにされたい。

備考欄には第二回豫想收穫高及前年收穫高に比し、増減の事由及び氣候の適否、用水の過不足施肥の多少、發育の經過、病虫害、風水害等の有無を必ず記載することにされたい。

耕地面積

(市町村報告期翌年一月十五日限)

本表は統計調査員が十二月末日現在を以て作付段別調査原簿並に實段別調査原簿に基きて調査の上、耕地面積調査集計表を作成し、提出せられたるものに依り製表するのであります。而して年末現在面積は作付段別調査原簿及果實段別調査原簿の各小字計段別を合計記載し、年内移動は該原簿の昭和十

る所でありまして若し調査員にして斯様なお方が御座いましたらば、直ちに之が加除整理を完全に行ひ耕地と必ず一致せしめ調査に差支を生ずる様な事の無い様に御注意を願つて置きます。

尙此處で特に注意して置く事は耕地面積とは作付段別に畦畔段別を加へたるものを謂ふのであります。又作付段別とは實際に作物を作付してある面積を謂ひます、即ち耕地面積へは畦畔を含めたるものが計上さるゝのでありますから此の區別を明瞭にして調査せられたいのであります。

更に調査上特に注意を要する点を左に摘記して参考に供します。

一、本年は不幸にして近年稀なる大水害を蒙りましたので耕地の損傷が非常に多い事と存じます、即ち地租法第五十四條に依る荒地(災害に因り地形を變じ又は作土を損傷したる土地)が水害の被害地方には相當に多い様ですから之が調査に當りては

周到に行はれ先程縣へ報告せられたる農用地の被害面積と良く對照の上誤りのない様に細心の注意を煩はし度いのです。

一、本調査にて荒地復舊と申しますのは地租法に謂ふ荒地を再び人力を加へて耕地に復舊したるものを掲ぐべきものであります。

一、潰廢の荒地とは耕地が天災に因り耕地にあらざる土地となつた場合(山崩、川欠、石砂入等)を指すもので只單に數年間休閑せる爲に雜草が生えて原野の様になつて居る場合には本調査で云ふ荒地では有りませんから其の場合には地類變換として取扱つて頂きます。

一、其の他の欄へは田畑相互間の移動の外實測の結果に依る増減段別を記入し其の内譯を備考に説明せられたいのです。

一、前年末現在面積に年内の擴張、潰廢及其の他による増減段別を加除

年中に於ける異動加除の事實を擴張の開墾、埋立及干拓、荒地復舊地目變換及潰廢の宅地並工場及建物敷地、道路鐵道、軌道、河川及水路敷地、荒地、地類及地目變換等の區分に從つて夫々該當欄へ計上するのであります。

以上の如く本調査は作付段別調査原簿並果實段別調査原簿が基礎となるのであります、従つて本調査の正確を期するには先づ調査原簿の加除整理を適正ならしめ、該原簿を常に耕地の現狀と一致せしめて置く事が最も肝要なのであります。

所が中には此の大切な原簿の加除整理を怠り耕地の實際狀態と符合して居らぬ様なものも尠くない様に見受けるのであります、此の点は誠に遺憾とする時は年末現在段別と一致すべきものですから必ず此の方法にて内容の正否を確かむる事に努めて頂きます、尙擴張、潰廢其の他の移動を加除せる結果を例示すれば次の通となります。

計	前年		其の年の異動		年末
	在	反	擴張	潰廢	
田	一五〇	反	一	反	一五一
畑	三五〇	反	二	反	三四八
計	四〇〇	反	三	反	三九七

備考 其の他の内譯

畑を田とせるもの 二反歩
田の實測増 一反歩

食用農産物

(市町村報告期翌年一月十五日限)

本表は食糧として米麥に次で重要な農産物即ち大豆、小豆、アハ、ヒエトウモロコシ、ソバ、サツマイモ、サツマイモ切子、ジャガイモにして其の

作付段別は農産物調査方法に依り調査員が耕地一筆毎に調査小票を用ひて實地踏査したる結果に基き春、夏、秋の各季別集計表に纏めて提出したるものに依りて調製するのであります、數量の單位は大乃至ソバは石を以て、サツマイモ、サツマイモ切干、ジャガイモは貫を以て表はします、又大豆、トウモロコシ等の様に未成熟の儘採取して食用に供するもの、數量は總て成熟したる時の數量に換算して計上するのであります。

尙サツマイモはサツマイモ切干となる原料を控除する事なく總數量を計上し、サツマイモ切干には其の地に於て生産せられたるサツマイモより切干となしたるものは元より他より原料を購入して製造せるものと雖も凡て其の生産數量の全部を調査計上すべきものとす。

本表中一段歩收穫高は無收穫段別を控除せざる作付段別を以て收穫高を除

し算出し、又單價は生産季節に於ける其の地方市場卸賣平均價額に依るべきものですから製表當時の價額に依り計上せざる様に注意して頂きます。

□牛

(市町村報告期一月末日限)

牛乳表の該當ある市町村で、例へば同表に搾乳業者一、飼養頭數一〇と記入しあるにも拘らず牛表の飼養戸數の五頭以上の欄に記入無きものがありま

□馬

(市町村報告期一月末日限)

馬表は明四歳以上、明三歳、明二歳當歳と各年齢別に調査することになつて居りますが其の調査の現在十二月末日で調査に向いた時が一月の初旬であるため往々年齢に誤調がある様に

存ぜられます、これ即ち十二月末日の年齢で調査を願ひたいのですが一月に調査に行く爲一月の年齢で調査するの

で斯る間違ひを生ずるのです。それですから此の年齢別の調査に當りましては前年に調査した各馬の年齢が相違なきやを確めそれに各一つ宛年齢を加へる、そして移入馬に就ては特に其の年齢を厳密に調査する様に願ひたいのであります。

□農作物被害調査に就て

(市町村報告期一月末日限)

本調査は昭和六年一月二十七日統發第八號通牒に基き昭和六年以來毎年調査報告を煩して居りましたが、本年よりは様式第二號票及第三號票は廢止され爾今様式第一號票のみに依り調査報告することになりましたので、縣に於ても昭和十年九月十八日統發第一二八號を以て通牒致したる通り様式第一號票を以て調査し第二號票は送付致しま

せんから第一號票を整理の上翌年一月末日限り縣へ提出せられたいのであります、尙第一號票は各市町村毎に農林省へ進達することになつて居りますか

ら、調査の目的より見ますれば從來より、より以上重要性が加はつたばかりでなく、此の調査に當ります各市町村の主任者や、統計調査員の方の責任も

亦重大でありますから、調査に際しては細心の注意をなすと共に適正妥當なる完全な調査をなし、萬全を期したいのであります。



茨城のニハトリ

茨城のアヒル

農家といふ農家では、大抵のところには鶏は飼はれてゐて、その卵は農村唯一の榮養素であり、御馳走であり、そしてまたその日くの小遣ひ錢ともなつてゐるのだが、一体茨城縣には何羽位鶏があるのか、年に幾つ位卵を産むのか？

縣の統計課で調べたところによるとことしの六月末現在で鶏を飼養してゐる戸數が十二萬九千四百二戸で昨年からみると千二百九十二戸ばかり減じてゐる、其内十羽未満が八萬八千九百戸

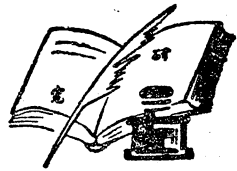
といふ大部分を占め、十羽以上五十羽未満が三萬八千四百戸、五十羽以上で營業的に飼つてゐるのが二千二百戸

それで鶏數が百六十四萬千七百八十八羽、價格に見積ると八十萬九千四百二十三圓とある、更にこの鶏が一ケ年に幾つ卵を産んだかといふと驚く勿れ一億二千六百四十八萬千五百七十個、其價が二百四十八萬二千三百二十二圓の巨額に上つたんだから卵位なんていつたものぢやない、

これも鶏の羽數からみると五萬八千七百五十羽だけ前年より減じてゐるが産卵數は百九十四萬千二百四十七個増

してゐる、つまり養鶏法が進んで來たのであらう、養鶏の最も盛んなのは稲敷郡で、新治、東茨城、筑波の順になつてゐる、水戸が一番少いのだが、それでも年二萬六千三百三十三圓の卵を産ませた。

家禽序でに驚(アヒル)を記して見よう、養鴨戸數は縣下で僅かに九百二十一戸、羽數が八千八百七十五羽(價格五千四百十六圓)で一ケ年の産卵數が四十四萬九百三十個、その價額が一萬九千四百十五圓、これも羽數は千三百六十二羽も減じてゐるが卵は二萬七千九百七十三個殖えてゐる、驚もまた稻敷が斷然多し。



統計相談所

統計に關し疑問なり又は不明な点がありましたら、御問合せ下さい。誌上にて丁寧にお答へ致します。

耕地面積

〔問〕 耕地の休閑地は耕地の潰廢として掲すべきものでせうか。

〔答〕 耕地は作物の栽培に適し、且これを目的とする土地なるを以て年末現在に於て耕地の形態を具備し居れば現に耕耘してゐなくとも耕地とすべきものです、従つて勞力の不足や小作爭議等の爲現に作物の栽培なき土地にても耕地として調査すべきものです。

園藝農産物果實の四

〔問〕 二十世紀又は勝鬨と稱する梨は西

洋梨でせうか日本梨でせうか、又支那梨は何れの部に屬するのでせうか。

〔答〕 二十世紀(勝鬨)は日本梨です、又支那梨は西洋梨の部に記入し、備考に説明すべきものです。

〔問〕 統計表に「昭和何年」又は「何年何月何日現在」(自昭和何年七月)とあるは前年七月一日より其の年六月三十日迄を示すのです。

〔答〕 「昭和何年」とあるは其の年一月一日より十二月三十一日迄「何月何日現在」は其の日の現在「自昭和何年七月」とあるは前年七月一日より其の年六月三十日迄を示すのです。

〔問〕 夏秋蠶繭の統計報告期日迄に販賣

されざる場合の價額は如何にして調査すべきものでせうか。

〔答〕 價額は必ずしも全部賣却されし値段に依らなくとも差支ない、調査上の一般注意の七にある如く該生産季節に依る地方市場の卸賣平均價額に依るのです。

水産養殖

〔問〕 溜池に鯉、鮒等を放ち置き一定の料金を徴收して釣を爲さしめ其の得たる魚類は釣者の所得とするが如きは一つの養殖として調査に入るべきものでせうか。

〔答〕 水産養殖の目的を以て養殖せしむるものならば無論調査を要すべきも、始めより設問の如き目的の爲養殖せしものとすれば調査を要しません。

園藝農産物果實の三

〔問〕 觀賞の目的にて公園又は庭園に梅樹を植付其の果實を收穫せるものは調

査を要しませうか。

〔答〕 假令觀賞に供せらるゝ場合に於ても果實を收穫したるものは注意の一に依り調査を要します。

瓦及土管

〔問〕 粘土一坪より平瓦何枚程出来るものでせうか。

〔答〕 普通千四百枚位製造される。

石材及土石鑛水

〔問〕 粘土一坪の重量は瓦及土管表の對照調査の参考ともなり大体何貫程あるでせうか。

〔答〕 大体一坪二千四、五百貫位です。

米生産統計調査

〔問〕 米生産の見積一反歩當りは年々變更すべきものでせうか。

〔答〕 其の年の作柄に依り相違するものなるに付坪刈の結果を農業技術員又は精農家の意見並糶摺歩合等を參酌し其

の年の見積一反歩收穫高を決定するのです。

〔問〕 米作付反別調査(水稻)にて其の畦畔は差引すべき筈なるも用水路に植付ある稲作の取扱は如何にすべきや。

〔答〕 用水路に水稻を事實作付したるものは各耕作者毎に合算調査せられたし

園藝農産物蔬菜及花卉の二

〔問〕 花ユリは無論花を目的として栽培せるものを調査すべきものですが是等二年作のものは栽培したる年に於て作付反別を調査し收穫高は翌年の收穫せる時に於て調査するものでせうか。

〔答〕 二年作の場合は凡て收穫したる年に於て作付反別と收穫高を調査するのです。

但し農産物調査方法に依れば作付ありたる年に於ける作付面積を調査し集計表には掲上すべきも備考に收穫しない旨明記し次年の收穫したる年に更に調査報告を要すべきものです。

農作物被害調査表

〔問〕 農業保險基礎資料として報告の農作物被害調査表作成に當りては冷害は其の他の欄に計上することに決定を見たるも打續く冷害に依る被害甚大なるに鑑み製表に就ては一見してハッキリするやうに災害種類を「冷害」として處理する方妥當なりと信ずるが如何。

〔答〕 様式中になきを以て「其他」として備考に其の旨附記せられたい。

〔問〕 春蠶及夏秋蠶等に於て上簇直前病害發生に依り收穫皆無となりたる場合桑畑に於ける收益なきも右は災害被害同様農作物被害票にて調査報告の要がありますか。

〔答〕 直接農作物に被害無き限りその必要ありません。

〔問〕 水稻其他農作物にて水害の爲甲は二反歩、乙は一反歩を刈取り後流失し收穫皆無となり、丙は下流にありて甲乙流失分に相當する位拾得し之を隠

蔽した故に事實に於ては三者を合すれば收穫に於て異動なけれども、甲乙兩者は各々水害に依り被害あり斯る場合甲乙が全部を流失に依る被害と計上すべきや又事實に基き被害なきものとして處理すべきや右の場合に於て丙が自村以外のものなるときは如何に處理すべきや。

〔答〕米表に於ては刈取たる場合は假令流失したるものと雖收穫せしものと見

做し調査するを可とすれども被害票の場合には被害として夫々掲上すること。

〔問〕河川の變動により河川敷が溜池の如きものになりたる所に米作をなしたる者あり洪水あらば必ず流失し收穫なきは明らかなり此の場合調査に當り作付反別に計上すべきものでせうか、又流失したる場合損害として被害反別に計上すべきものでせうか。

〔答〕何れも計上するを可とす。

〔問〕上作地、中作地と認めたる水稻に氣候不順なる爲蟲害並に冷害に依り坪刈の結果反當穀收量に於て一俵半の收穫見込なり、下作地は坪刈に依り反當穀に於て三俵半位の見込なり右の如き場合は下作地の一反歩收穫高を如何に決定すべきものなるや。

〔答〕實際の作柄に依り作柄等を修正し其の作柄毎に坪刈を行ひ一段歩當收穫高を作柄毎に決定するのです。

國勢調査員に 感謝状

過般の國勢調査に當られた國勢調査員にして七月二十日任命以來調査終了迄引續き調査に従事したるもの及び市町村の職員にして相當期間同調査に關與し特に功勞あつたものに對し内閣統計局長より感謝状を附與される筈
尙別記元國勢調査員の新宿御苑拜觀願出につき十日迄に内閣統計局長宛書類の進達手續きをなしたるもの左の如し

- △結城郡大生村元國勢調査員永瀬吉次郎外十五名
- △那珂郡菅谷村元國勢調査員飯塚友藏外十五名
- △新治郡斗利出村元國勢調査員服部覺亮外十名
- △稻敷郡木原村元國勢調査員吉田詮外二十一名
- △東茨城郡大貫町元國勢調査員栗原助太郎外二十六名

農林省統計課長 本縣米生產統計視察 卷頭繪寫眞參照

農林大臣官房
統計課長本多佐七氏は同省囑託石井春平氏を伴ひ、本縣に於ける米生產統計調査狀況視察の爲九月廿一日午後一時十分水戸着にて來縣、川崎本縣統計課長並に成瀬縣屬の案内で詳細視察す

る所あつた。是より先き縣統計課では右の電話に接し視察地として那珂郡佐野村、久慈郡賀美村、中里村、河内村の四ヶ村を選定、視察日程を作りて一行を待ち受けたが、右選定村の内佐野村の主任根本書記及び賀美村の主任助川書記は曩に本會より統計事務視察として千葉縣へ派遣の際、歸途農林省を訪問して本多課長より御挨拶を頂き既

に顔見知りの親しい氣持で迎へられた

二十一日の佐野村は恰も國勢調査員打合せを招集中であつたが此の國勢調査員は何れも統計調査員なので期せずして統計調査の狀況並にその苦心談をも聽取するを得、これに對して本多課長の懇篤な挨拶があつた、翌二十二日の賀美及び中里村では何れも統計調査員を招集して課長から訓示を仰ぎ、河内村でも仔細に事務を視察せられ午後四時十七分水戸發列車で歸京された。視察日程左の如し

本多課長視察日程

- △九月二十一日午後一時十分水戸驛着、午後二時縣廳出發、午後二時三十分那珂郡佐野村着視察、午後四時三十分佐野村發、午後五時大洗常陽明治記念館視察大洗一泊、
- △九月二十二日午前八時 國幣中社大洗磯前神社參拜、午前八時三十分大洗發、午前十時三十分 久慈郡賀美村着視察、午前十一時五十分賀美村發、午後十二時十分久慈郡中里村着視察、午後一時四十分

中里村發、午後二時久慈郡河内村着視察、午後二時三十分河内村發、午後四時十七分水戸驛發歸京

華山統計官來縣

水害狀況其他視察

内閣統計局統計官華山親義氏は今回の國勢調査と縣會議員選舉との關係其他打合の爲九月二十二日午後四時四十分水戸驛着にて來縣、川崎統計課長及關係係官と打合せの上翌朝山本總務部長、八田警察部長を訪問午前十一時二十十分水戸驛發にて群馬縣へ向はれたが更に本縣の水害頗る激甚にして十月一日に於ける國勢調査に支障あるもの、如きを以て再び中山囑託を伴ひ二十八日午後五時二十九分水戸驛着にて來縣水害狀況並國勢調査に及ぼす影響等を聽取し諸事打合せの上翌日堤防決潰の北相馬郡高須村の現状を視察して歸京した。

國富と國民所得調査

縣下で一、四二二世帯

日本の富の大きさはいくらであるか、その富は如何なる種類のものから成つてゐるか、又日本國民全體の所得はいくらであるか、その所得は如何なる産業から生み出されるか、國富と國民所得との關係はどうであるかを明かにし我國の産業、經濟については勿論、その他各般にわたる政策施設の基本資料たらしむべく政府では昭和五年はじめて『國富及び國民所得調査』なるものを行ひ本年またその第二回調査を行ふこととなり、内閣統計局では本縣下の調査世帯として左の如く配當した。

△農業世帯八九四△水産世帯(漁撈)三九
△工業世帯一五四△物品販賣世帯(卸賣)三五、(小賣)一五六計一九一△非營業世帯一四四、合計一、四二二世帯

そこで本縣では水戸市及び各郡から六十五町村を選定、標本的實地調査を行ふことにし、之が打合會を左の如く開催した。

打合會事項

- 一、調査趣旨ノ徹底ニ關スル件
- 二、調査世帯ノ選定ニ關スル件
- 三、調査世帯者選定者名簿作成ノ件
- 四、調査票用紙配付ニ關スル件
- 五、調査票記入方ノ件
- 六、調査票ノ蒐集検査提出ニ關スル件

打合會日割

十一月八日(縣廳に於て)
△水戸市△東茨城郡 下大野村、鞆岡村
長岡村、竹原村△那珂郡 佐野村、村松村、瓜連村、野口村、湊町△久慈郡 佐竹村、染和田村、河内村、賀美村、太田町、久慈町、△多賀郡坂上村、日立町、楡形村、松原町、大津町△鹿島郡 夏海村、諏訪村、中野村、波崎町

五〇

十一月九日(土浦町役場に於て)
△行方郡 麻生町、大生原村、大和村、武田村△稻敷郡 安中村、君原村、朝日村、柴崎村、龍ヶ崎町△新治郡 美並村、石岡町、新治村、藤澤村、栗原村、土浦町△筑波郡 眞瀨村、上郷村、菅間村、小野川村△北相馬郡 菅生村、大野村、山王村、取手町

十一月十一日(下館町役場に於て)
△西茨城郡 宍戸町、大池田村△眞壁郡 下館町、關本町、大寶村、古里村、眞壁町△結城郡 結城町、總上村、石下町、三妻村、水海道町△猿島郡 古河町、幸島村、七重村、神大寶村、岩井町

統計研究會長の

縣會議員當選

多賀郡北部産業統計事務研究會會長竝に統計協會同郡支部長として統計事業の爲盡瘁せられた宮田厚氏、筑波郡中部統計事務研究會會長として多年不斷の努力を本事務に盡された横田内藏之丞氏は先頃の縣會議員選舉に見事當選の榮を得られた、茲に謹んで祝意を表すると共に今後本會の爲に一層御援助御指導あらんことをお願ひする



各地統計雜信

調査員諸君
何なりと奮
つて御通信
を願ひます

那珂郡西部研究會

那珂郡西部統計事務研究會では十月二十八、九兩日全郡檜澤村小學校に於て統計事務研究會を開き縣統計課より渡邊屬が臨席、午前十時三十分開催地の小室檜澤村長の開辭に次ぎ渡邊屬の挨拶あつて會議に移り縣提出の農林統計につき詳細説明の後質疑應答を重ね何れも熱心に研究された、出席者左の如し

檜澤村小室村長、長岡助役、長岡收入役
木村書記、岡崎書記、勝村書記、大森書記

△小瀨村橋本書記△大宮町阿久津書記△大連町龍崎鳴託△上野村萩谷書記△大場村

筑波郡北部研究會

筑波郡北部統計事務研究會では十月二十八日同郡北條町役場に於て定例研究會を開き、縣統計課より岡崎主事補が臨席した、午前九時十分開會、縣提出の左記事項を岡崎主事補より詳細説明の後質疑應答を重ね、更に各町村提出の研究事項に就て研究を爲し午後三時閉會した、出席者左の如し

北條町飯竹書記△筑波町酒寄書記△田井村櫻井書記△菅間村小笠原書記△高道祖

多賀郡南部研究會

- 多賀郡南部統計事務研究會の米生産統計調査事務研究會は十月二十四日同郡日立町で開催、縣より同郡擔任の成瀬屬が出席した、先づ主催地として根本日立町助役開會を告げ、田村幹事より會長事故の爲出席不能なること及び研究會開催の趣旨と経過を述べ、次に成瀬屬より打合事項に就き詳細に指導説明があり其の他一般事務に付協議を遂ぐる處あつた、出席者は左の通りである
- 一、統計事務刷新改善に關する件
 - 一、米生産統計調査趣旨の徹底に關する件
 - 一、冷害及水害に依る米の減收見込段別及減收數量調査の件

村飯岡書記△田水山村小松崎書記△作岡村高橋書記△大穂村柳町書記△小田村神山書記△吉沼村杉山書記

指 示 事 項

多賀郡南部統計事務研究會の米生産統計調査事務研究會は十月二十四日同郡日立町で開催、縣より同郡擔任の成瀬屬が出席した、先づ主催地として根本日立町助役開會を告げ、田村幹事より會長事故の爲出席不能なること及び研究會開催の趣旨と経過を述べ、次に成瀬屬より打合事項に就き詳細に指導説明があり其の他一般事務に付協議を遂ぐる處あつた、出席者は左の通りである

縣成瀬屬△坂上村田村書記△河原予町鈴木助役、黒澤書記△鮎川村黒澤書記、久下谷書記△助川町錦木書記△日立町根本助役、大内書記△日高村根本書記△豊浦町吉田書記△黒前村根本書記△櫛形村推名書記

久慈中部研究会

久慈郡中部統計事務研究会は九月十六、十七の兩日金郷村役場に於て國勢調査事項に關する研究会を開催した、十七日には縣から全郡擔任の郡司屬が臨席して左記縣提出の注意事項に就て説明があり質疑應答の午後二時終了した。

縣提出議案

- 一、國勢調査事務に關する件
- 一、國勢調査員の異動に關する件
- 一、國勢調査員訓練に關する件
- 一、國勢調査豫習申告書及全照査表檢閲の結果に就て

尚出席者は左記の通りである

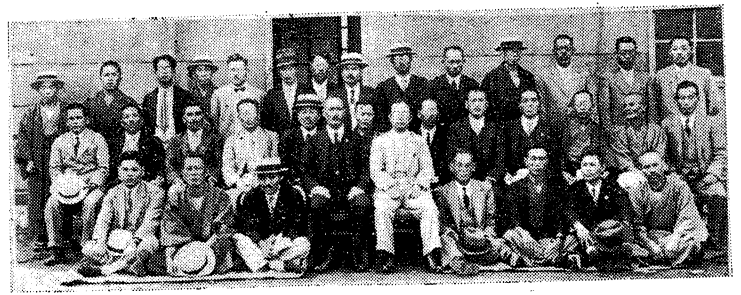
(縣統計課)郡司屬 (町村役場)金郷村須

藤村長、荒井助役生田目書記△染和田村鈴木書記、金澤書記△天下野村菊池書記根本書記△高倉村中郡書記△中里村鶴田書記△小里村小田部書記△世喜村古徳書記△金砂村金澤書記

東茨城研究会員視察

東茨城郡統計事務研究会は九月十六日午前八時十五分東茨城郡町村長會事務所に於て開催、會則の變更及昭和九年度の歳入出決算の認定を諮り滿場一致を以て可決、全九時閉會、記念撮影をなし統計事務の模範村として名高い賀美村の視察を行つた、尙ほ當日は第一支會より農林統計作付反別調査票(小票)改正の件、第二支會より麥報告期限の變更の件につき提案あつたが賀美村視察の爲次の總會の議題に供することゝなつた、出席者は左の如し

(寫眞前列中央右吉見屬、左江橋幹事)
縣統計課吉見屬△郡町村長會江橋幹事
△上大野村横須賀助役△下大野村平戸書記△稻荷村後原助役、江橋書記△酒門村



△下中妻村谷津書記△中妻村鶴田書記△渡里村根本書記△飯富村安島書記△山根村大澤書記△石塚町飯村書記△小松村園

坂場書記△石崎村大和書記△吉田村皆川書記△綠岡村寺門書記△河和村丸山助役△上中妻村藤地書記△長岡村寺山書記△上野合村田家書記△白河村小野書記△橋村内田書記△小川町高野書記△竹原村大賞書記△堅倉村中山書記△鯉淵村大島書記

部書記△西郷村大高書記△环村崑山書記△澤山村小林書記△伊勢畑村楡山書記△磯濱町田口書記△大貫町小沼書記

統計職員養成所入所

内閣統計局に於て開催の統計職員養成所入所者として本縣より二名詮衡の

鹿島郡鉾田町 荒野 勇

今盛んにチャンバラをやつてゐるイタリーとエチオピアは、文前前の兩軍兵力は次の如きものと

明國と半開國、新式と舊式、さういつた大取組みで、イ軍が精銳を誇る武器を以て華やかにして行くと一方エ軍は槍を持ちだんびらを腰に差して之れに向ひ、猛獸毒蛇を放つて近代的武力を追つばらほうといふのだから見ものだ、さて兩軍の兵力は

○

伊太利軍 東アフリカの殖民地 百機關銃千五百、歩兵砲二百五

軍、土人軍、歩兵四大隊と一中 十大砲七百門、飛行機五六百臺

とそれに戰車若干

工兵一中隊、航空兵一中隊、自動車機關銃一中隊(兵員計將校

エチオピア軍 正規軍——平時

百十一人、下士卒三千四百八十 兵、砲兵から成り、その兵數三

は皇帝を衛る近衛兵で歩兵、騎

機は八臺だとか二十臺とかい

つてゐる

千五百人。政府軍——各洲に分れてゐるが矢張り皇帝に屬してゐるもので志願兵か土着の屯田兵でその數約十萬、地方軍——各地の土侯の私有兵で其數まちまちだが以上總計で兵員二三百萬人位出来る、兵器は何れも舊式なもので小銃五六十萬(タマガ一挺について三四十發)機關銃三四萬、大砲五六十門、飛行機は八臺だとか二十臺とかい